



始



大正九年度事業報告

新潟縣農事試驗場

1421
28/1

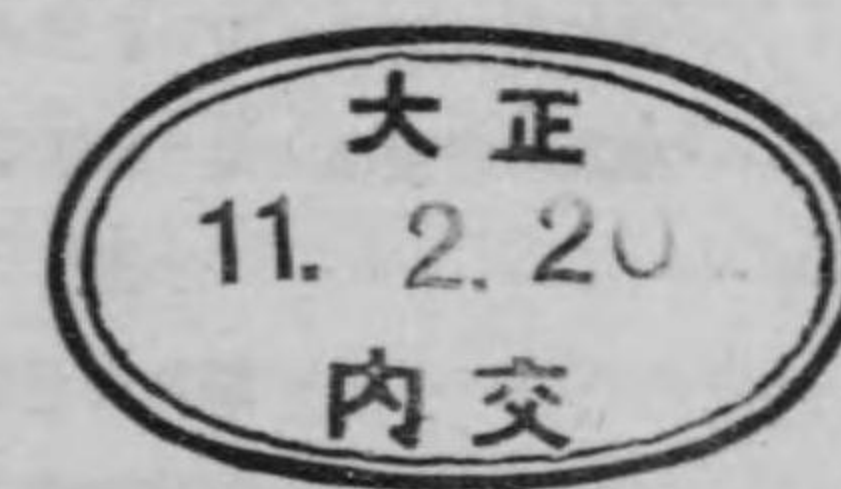
1421-28/1

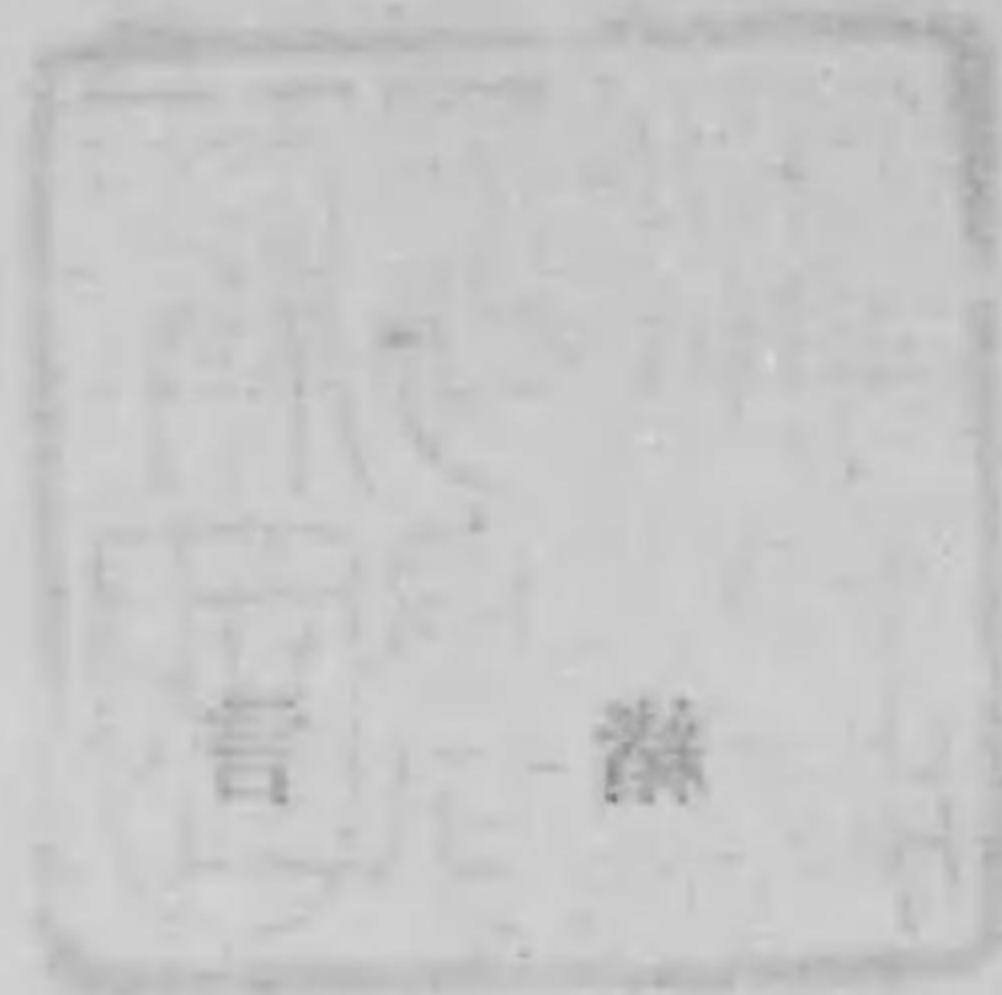


本報告ハ當場ニ於テ施行セル
大正八年度冬作及大正九年度
夏作試験成績並ニ其ノ他ノ事
業ヲ記載シタルモノナリ

大正十年十一月

新潟縣農事試験場





本館に於ては、農業に関する各種の書籍、
 雑誌、新聞、図説、年報、月報、旬報、
 季報、半年報、四半報、五日報、十日報、
 一月報、三月報、半年報、一年報、
 二年報、三年報、五年報、十年報、
 二十年報、三十年報、五十年報、
 百年報、千百年報、萬年報、
 各種の農業資料を、
 蒐集し、整理し、
 出版し、
 農業の発展に
 貢献する。

大正十五年十一月一日

農業書局



大正九年度事業報告目次

種 藝 部

水 稻 ノ 部	1
第一 豊凶考照試験	1
第二 品種對施肥量試験	1
第三 追肥期試験	1
第四 耕鋤深淺對施肥量試験	1
第五 苗代日數試験	2
第六 無肥料試験	2
第七 客土法試験	2
第八 一本植株數試験	3
第九 倒伏ニ關スル調査	3
第十 株間廣狹對一坪株數試験	3
第十一 原種對株數試験	4
第十二 芽出ノ長短ト苗ノ生育關係調査	4
第十三 品種對三要素配合法試験	4
第十四 地溫觀測	5
第十五 苗代ニ關スル試験	5
第十六 生育調査	5
第十七 品種比較本試験	6
第十八 品種比較豫備試験	6
第十九 御大典紀念出品稻比較試験	7
第二十 純系淘汰試験	7
第二十一 自然雜種ニ依ル品種育成試験	9
第二十二 人為雜種ニ依ル品種育成試験	10
陸 稻 ノ 部	10
第一 品種比較試験	10
第二 純系淘汰試験	10
大 豆 ノ 部	10

- 第一 品種比較試驗10
- 第二 純系淘汰試驗 11
- 第三 綠肥大豆品種比較試驗11
- 第四 株間廣狹對施肥量試驗11
- 第五 移植期試驗12
- 第六 收穫期調查12
- 大 麥 ノ 部12
- 第一 麥豐凶考照試驗12
- 第二 栽培法試驗12
- 第三 窒素質肥料種類試驗12
- 第四 磷酸質肥料種類試驗13
- 第五 窒素對磷酸加里施用量試驗13
- 第六 輪栽法試驗14
- 第七 移植期試驗14
- 第八 施肥量試驗14
- 第九 土入回数試驗15
- 第十 品種比較本試驗15
- 第十一 品種比較豫備試驗16
- 第十二 純系淘汰試驗16
- 小 麥 ノ 部16
- 第一 品種比較本試驗16
- 第二 品種比較豫備試驗17
- 農 具 ノ 部17
- 氣象觀測ノ部17
- 今摺米試驗ノ部17
- 第一 今摺米改良ニ關スル試驗17
- 委託試驗ノ部17
- 第一 麥作模範作地17
- 第二 水稻品種比較委託試驗18
- 原種圃ノ部18

- 第一 水稻原種圃18
- 第二 陸稻原種圃19
- 第三 麥原種圃20
- 第四 大豆原種圃20
- 第五 甘藷原種圃20
- 第六 馬鈴薯原種圃21
- 採種圃ノ部21
- 第一 米採種圃21
- 第二 麥採種圃24
- 第三 大豆採種圃25
- 第四 甘藷馬鈴薯採種圃26
- 種子配附ノ部26
- 園 藝 部
- 果 樹 ノ 部27
- 第一 李27
- 第二 桃27
- 第三 櫻桃27
- 第四 梨27
- 第五 梨樹施肥期試驗28
- 第六 洋梨徒長枝處分ニ關スル研究28
- 第七 蘋果品種試驗28
- 第八 甘柿品種比較試驗28
- 第九 滋柿整枝法試驗28
- 第十 葡萄整枝法試驗29
- 第十一 梨ノ品種改良29
- 第十二 和梨早生赤個体調査29
- 蔬 菜 ノ 部29
- 第一 茄子種子鹽素刺戟試驗29
- 第二 南瓜落果防止法試驗30

第三 蕪齒嚙入ニ關スル試驗	31
第四 蕪齒品種試驗	33
第五 甘藷品種試驗	33
第六 甘藷播種期試驗	34
第七 結球白菜品種試驗	34
第八 甘藷純系淘汰試驗	35
第九 甘藷貯藏法試驗	35
委託試驗ノ部	36
第一 苹果模範果樹園	36
第二 和梨晚三吉收支調査	36
第三 歐洲葡萄特性調査	37

農藝化學部

木框試驗ノ部	39
第一 有機質ノ地力ニ及ボス影響試驗	39
第二 天然供給量試驗	40
圓筒試驗ノ部	40
第一 石灰窒素施用法試驗	40
第二 鹽害豫防法試驗	42
第三 米糠施用法試驗	42
第四 磷酸質肥料試驗	43
施肥標準調査ノ部	43
第一 施肥標準調査	43
第二 施肥標準量査定試驗	44
第三 施肥標準調査設計ニ基テ委託試驗田成績	44
依頼分析ノ部	45
第一 分析件數及成分數	45

病蟲部

病害ニ關スル試驗ノ部	47
------------	----

第一 稻葉切病ニ關スル試驗	47
第二 稻熱病及大粒白絹病ニ關スル試驗	48
第三 大豆病害試驗	49
第四 白菜腐敗病試驗	51
害虫ニ關スル試驗ノ部	51
第一 苹果蚜虫驅除試驗	51
第二 梨姬心喰虫防除試驗	52
藥劑ニ關スル試驗ノ部	53
第一 亞砒酸曹達使用試驗	53
第二 ナヲタリンノ麥發芽及生育ニ及ボス影響試驗	53
第三 馬酔木ニ關スル試驗	54
第四 胡瓜新藥劑撒布試驗	54
第五 茄子ト石灰硫黃合劑トノ關係試驗	55
二化螟虫ニ關スル試驗ノ部	56
第一 葉鞘變色莖摘採効果ニ關スル試驗	56
第二 肥料施用量ト二化螟虫トノ關係試驗	57
第三 追肥トノ關係試驗	57
病虫害調査ノ部	57
第一 獎勵原種ト病虫害トノ關係	57
第二 茄子品種ト病虫害トノ關係	58
委託試驗ノ部	58
第一 華樹病害防除試驗	58
第二 梨姬心喰虫被害ト發掛回數トノ關係試驗	59
第三 茄子立枯病防除試驗	59
第四 白菜腐敗病防除試驗	59
第五 馬鈴薯病虫害防除試驗	60
第六 大豆病害防除試驗	60
野鼠チブス菌配付ノ部	61

農業技術員養成部

農業技術員養成	65
---------	----

庶務部

第一 出張ニ關スル事項67

第二 文書取扱件數67

第三 參觀人員67

第四 報告類發刊ニ關スル件67

第五 本場職員氏名68

庶務部職員名

..... 庶務部職員名

種藝部

水 稻 ノ 部

第 一 豐 凶 考 照 試 驗 (繼續第二十六年)

本試験ハ連年繼續シ其年ノ豐凶ヲ豫想スルト同時ニ監督官廳及主務省ヘ報告スルノ基礎ヲ得ルニアリテ各期ニ其生育狀況ヲ調査シ其都度之ヲ報告發表セリ

第 二 品 種 對 施 肥 量 試 驗 (新 設)

本試験ハ當場ニ於テ試験ノ結果有望ト認メタル品種ノ耐肥力ヲ試験セントスルモノニシテ岩ノ下新高水ノ錦新大場米光新愛國愛國新二本ノ九品種ニツキテ試験セリ本年度ノ成績ニヨレバ岩ノ下ハ六割増肥料區新高ハ普通肥料區水ノ錦ハ三割減肥料區新大場ハ普通肥料區米光ハ普通肥料區新愛國ハ三割増肥料區愛國ハ六割増肥料區新二本ハ三割増肥料區最高ノ收量ヲ示セリ尙ホ此等ノ品種ニツキ繼續試験セントス

第 三 追 肥 期 試 驗 (繼續第三年)

本試験ハ追肥期ヲ異ニセバ稻ノ生育並ニ收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ知ラントスルモノニシテ元肥トシテ堆肥二百㍑大豆粕十五㍑強過磷酸石灰二㍑藁灰二十㍑ヲ施シ追肥トシテ強過磷酸石灰二㍑人糞尿百㍑ヲ施用セリ而シテ本年度ノ成績ニヨレバ前年ノ成績ト同ジク八月一日ニ施用セルモノ收量多キヲ認メタリ

試 驗 別	三ヶ年 平均收量	試 驗 別	三ヶ年 平均收量
七月二十日追肥	石 2.974	八月十日肥追	石 2.912
八月一日同	3.067		

第 四 耕 鋤 深 淺 對 施 肥 量 試 驗 (繼續第二年)

本試験ハ耕鋤ノ深淺ト施肥量トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ本年度ニ於ケル成績ハ次表ノ如シ尙ホ繼續試験セントス

試 驗 別	四寸耕	六寸耕	八寸耕	一尺耕	二ヶ年平均収量			
					四寸耕	六寸耕	八寸耕	一尺耕
普通肥料	3.058	2.737	2.755	2.910	2.301	2.713	2.765	2.911
二割増肥料	2.832	3.131	2.670	3.068	2.793	3.100	2.763	2.997
四割増肥料	3.157	3.244	2.948	3.130	3.023	3.223	2.998	3.053
六割増肥料	2.830	3.137	3.065	2.264	2.869	3.135	3.011	3.118
十割増肥料	3.359	3.312	3.490	3.586	3.136	3.269	3.168	3.439

備考 普通肥料トハ堆肥百五十ノ大豆粕十二ノ糞製骨粉三ノ強過燐石灰一ノ八百多糞灰十二ノ追肥トシテ人糞尿六十ノ施用セルモノナリ

第五 苗代日數試驗 (新設)

本試驗ハ本年ノ如キ苗代期ニ於ケル低温ノ年ニ於ケル苗代日數ト收量トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ下表ノ如キ成績ヲ得タリ

試 驗 別	移植當時苗丈	主米量	試 驗 別	移植當時苗丈	主米量
五月二十九日移植	3.4	4.425	六月七日移植	6.5	4.124
六月二日同	5.4	4.391	六月十二日同	7.8	3.899

備考 播種期四月廿六日

第六 無肥料試驗 (繼續第八年)

當場ニ於ケル無肥料區ノ試驗成績ヲ舉グレバ下ノ如シ

大正元年	同二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年
1.341	1.193	0.940	2.196	2.007	1.794	2.230	2.246	2.489

但シ大正八年度迄ノ成績ハ耕起法試驗ノ平耕無肥料區ノ試驗成績ナリトス

第七 客土法試驗 (新設)

本試驗ハ客土ノ効果如何ヲ試驗セントスルモノニシテ乾田及濕田ノ二ヶ所ニ設置シタリ而シテ本年度ニ於ケル成績ハ左表ノ如シ尙ホ試驗ヲ繼續セントス

試 驗 別	乾 田		濕 田	
	石	石	石	石
標準區	2.899	2.844	反當二千ノ區	2.610
反當千ノ區	2.821	2.971	同 三千ノ區	2.768
				3.019

第八 一本植株數試驗 (繼續第三年)

本試驗ハ一本植株ヲナス場合ニ於ケル適當ナル株數ヲ知ルト同時ニ普通植ニ比シ幾何ノ差異アルヤヲ知ラントスルモノニシテ本年度ノ成績下ノ如シ但普通植ハ各品種共五十六株五本植トセリ

品 種 名	普通植	五十六株	七十二株	九十株
		一本植	一本植	一本植
岩ノ下	3.052	2.490	2.574	2.691
新高	2.893	2.561	2.333	2.496
改良愛國	3.352	3.042	3.225	3.143
新石白	3.014	3.025	3.218	3.198
新愛國	2.361	2.853	3.042	2.873

第九 倒伏ニ關スル調査 (繼續第二年)

本調査ハ收穫適期前ニ稻禾ヲ人工的ニ倒伏セシメ其ノ被害程度ヲ調査シ風害等ノタメ倒伏ヲ來タシタル際ノ減收ヲ豫想スル基礎ヲ得ントスルモノニシテ乾田濕田ノ二ヶ所ニ於テ調査シタル本年度ノ成績下ノ如シ

試 驗 別	乾 田		濕 田	
	石	石	石	石
標準	2.501	2.323	出穂後二十日倒伏	2.563
出穂後十日倒伏	2.021	2.401	同 三十日倒伏	2.628
				2.699

第十 株間廣狹對一坪株數試驗 (繼續第二年)

本試驗ハ株間ノ廣狹ト收量トノ關係及一坪株數ト收量トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ本年度ノ成績ニヨレバ一坪ノ株數ハ六十株乃至七十株ノモノ收量多ク又株間ノ廣狹ニ關シテハ一尺二寸幅ノモノ收量多シ尙ホ試驗ヲ繼續セントス

本調査ハ移植後五日乃至六日毎ニ草丈及分蘖ノ狀況ヲ調査シ其年ノ有効分蘖時期ヲ知ラントスルニアリテ本年度ハ高田早稻、龜ノ尾、早坊主、愛國、石白、美濃坊主ノ六種ニ付キ之レヲ行ヒタル經過ヲ觀ルニ高田早稻、石白、美濃坊主ノ三種ハ七月廿日ニ於テ最高本數ヲ示シ又早坊主、龜ノ尾、愛國ノ三種ハ七月十五日ニ於テ最高本數ヲ示シタリ

而シテ高田早稻、石白、美濃坊主ハ七月廿日以降殆ソド分蘖ナク又早坊主、龜ノ尾、愛國ハ七月十五日以降ハ殆ソド分蘖ナシ又各種共分蘖シタル本數ハ皆出穂セリ

第十七 品種比較本試験 (繼續第十三年)

本試験ハ品種比較豫備試験ノ結果成績優良ニシテ本縣ニ於テ有望ト認メタル品種ニ就キ詳細ニ其ノ優劣ヲ比較シ本縣ニ必適ノ品種ヲ選定セントスルモノニシテ本年度ニ於テハ二十品種ニツキ比較ヲ行ヒタル結果早生大野、國富、東郷二號、早生石白、大場一七〇號ハ數ヶ年試験ヲ經タルモ特ニ優良ナル點ヲ發見シ得ザルニ因リ之ヲ本試験ヨリ除キ其ノ他ノ品種ニツキ尙繼續試験シ其優劣ヲ查定セントス本年度ニ於テハ特ニ其成績優良ニシテ縣下ニ之ガ栽培ヲ普及獎勵スルノ價値アリト認メ種子繁殖ノ爲原種圃ヘ移シタルモノナシ

第十八 品種比較豫備試験 (繼續第十年)

本試験ハ各地方ヨリ其土地ノ優良品種ヲ蒐メ當地方ニ於ケル優劣ヲ比較調査シ前記品種比較本試験ニ供用スベキ品種ヲ選定セシメ豫備的試験ヲ行フモノニシテ本年度ニ於テハ新タニ蒐集シタル品種及前年度以前ニ取寄セタルモノ合計三十二品種ニ就キ試験ヲ行ヒタル結果下記四品種ヲ選抜シテ品種比較本試験ニ移スノ計劃ヲ樹テ三品種ハ見込ナキヲ以テ之ヲ廢棄シ殘餘ノ二五品種ニ就キテハ新タニ加フベキモノト共ニ試験ヲ繼續セントス、本年度ニ於テ選抜シ品種比較本試験ニ移サントスルモノ下ノ如シ

品 種 名	成 熟 期	累 年 平 均 玄米反當收量	玄 米 品 質
乙 坊 主	9.25 ^日	(8) 2.882	中ノ中

白 早 稻	9.17	(3) 2.779	中ノ上
保 村 八 號	9.28	(2) 2.959	中ノ下
石 白 (富 山)	10.1	(2) 2.934	上ノ下

第十九 御大典記念出品稻比較試験 (繼續第五年)

本試験ハ新潟縣農會ノ委托ヲ受ケ同會主催水稻品種改良獎勵規程ニ基ク出品稻ノ優劣ヲ比較調査スルモノニシテ本年度ニ於テハ十四品種ニ就キ試験ヲ行ヒ之ガ成績ヲ同會ニ報告セリ

第二十 純系淘汰試験 (繼續第六年)

本試験ハ在來品種ノ改良ヲ圖ランガ爲ニ行フモノニシテ大正四年度ニ着手シ爾來繼續試験中ノモノニシテ今試験着手年度順ニヨリ其概要ヲ記セバ下ノ如シ

イ、大正四年度着手純系淘汰試験

本試験ハ管内栽培反別ノ大ナルト品種比較試験ノ結果優良ナリシ十二品種ニ就キ行ヒルモノニシテ前年度ニ於テ試験完結シタルガ其ノ中改良ノ効果著シク普及用トシテ選抜決定シ新品种名ヲ附シ之ガ種子繁殖ヲナス爲原種圃ニ移シタルモノ左ノ八品種ナリ右試験ノ經過成績及改良セラレタル主要ナル點等ハ前年度報告ニ掲ゲタルヲ以テ發ニハ之ヲ略ス

品 種 名	前年度報告選出在來 當時ノ名稱品 種 名	品 種 名	前年度報告選出在來 當時ノ名稱品 種 名
新 石 白	新潟一號 石 白	新 愛 國	新潟五號 愛 國
新 一 本	同 二號 二本三	新 大 場	同 六號 大 場
新 二 本	同 三號 二本三	岩 ノ 下	同 七號 岩ノ下
新 高	同 四號 高田早稻	新 岩	同 八號 岩ノ下

ロ、大正五年度着手純系淘汰試験

前記大正四年度ニ着手シタル淘汰試験ハ其ノ材料尠少ナリシ爲更ニ該試験ノ効果ヲ確實ニセンガ爲十四品種ニ就キ之ヲ行ヒ本年度ハ着手

後第五年目ニシテ前年度迄ノ果淘汰選抜シ來レル有望系統ニ就キ甲乙二區制トシテ收量調査ヲ行ヒタリカクテ既往ノ成績ト比較對照シ改良ノ効果著シキモノヲ普及用トシテ選抜決定シ之ガ種子ヲ繁殖センガ爲ニ十年度ヨリ原種圃ニ移ス計劃ヲ樹テタルモノ三品種(龜ノ尾五ノ四五,越中坊主五ノ六,石白五ノ一八六)十一年度ヨリ原種圃へ移ス計劃ニテ十年度ヨリ原々種栽培セントスルモノ三品種(早坊主五ノ一〇,中生高宮五ノ一五,銀葉五ノ三二)ナリ,大正十年度ハ越中坊主石白,銀葉越前,新庄内,庄内坊主ノ六品種ニツキ引繼ギ收量調査ヲ行ハントス,右ハ大正七年度ニ於テ收量調査ヲナサマリシ爲メナリ,下ニ普及用トシテ選抜決定セル品種ノ試驗經過並ニ累年平均收量及改良セラレタル主要ノ點ニ付其ノ概要ヲ記サバ下ノ如シ

1, 本年度迄ノ試驗經過

品 種 名	初年目 栽植株數	初年目 選拔株數	第二年目		第三年目 同	第四年目 同	第五年目 同
			各系統 栽植株數	選拔系統 株數			
龜ノ尾	8160	61	112	30	20	20	12
石白	8160	300	168	62	32	32	18
越中坊主	8160	61	112	30	13	13	10
早坊主	8160	69	112	30	14	14	10
中生高宮	8160	51	112	30	22	22	13
銀葉	8160	52	112	26	12	12	7

2, 普及用トシテ選抜決定セルモノ、累年平均收量

品 種 名	反當 米收量	原種ニ比シ增收		在來種ニ比シ增收		玄米品質
		反當	%	反當	%	
龜ノ尾	45	2.873	0.350	13.9	0.328	上ノ下
石白	186	3.100	0.314	11.3	0.420	上ノ中
越中坊主	6	3.290	0.399	13.8	0.397	中ノ中
早坊主	10	3.064	0.210	7.4	0.323	中ハ上
中生高宮	15	2.965	0.225	7	0.266	中ノ中
銀葉	30	2.542	0.060	2.4	0.403	中ノ下

3, 改良セラレタル主要ナル點

龜ノ尾 45	原種及在來種ニ比シ收量多ク米質亦佳ナリ成熟期モ幾分早ク 稈長モ多少短ク稈又從來ノモノニ比シ強健ナリ
--------	--

石白 186	原種及在來種ニ比シ收量多シ稈長2-3寸短ク從ツテ多肥栽培 ヲナスモ倒伏スルコト少ナシ
越中坊主 6	原種及在來種ニ比シ收量多シ稈長約1寸5分短ク稈強健ナリ
早坊主 10	原種及在來種ニ比シ收量多キハ勿論其他ノ點ニ於テモ昔從來 ノモノヨリモ優レリ
中生高宮 15	原種及在來種ニ比シ收量多シ
銀葉 32	原種及在來種ニ比シ收量多シ

ハ, 大正六年度着手純系淘汰試驗

在來愛國種ハ變異性大ニシテ之ガ改良ヲ行ハノガ爲大正六年度ニ於テ更ニ蒐集ノ範圍ヲ廣メ純系分離試驗ニ着手シ同年度ニ於テ八千四百株ヲ栽植シ之ヨリ選抜シテ大正七年度ニ六十系統ヲ栽培シテ特性ヲ調査シ二十八系統ヲ淘汰選抜シテ前年度ニ收量調査ヲ行ヒタルニ米質其ノ他ノ特性ニ於テ有望ナルモノ不尠本年度ハ前年度選抜シタル二十一系統ヲ栽培シタリ大正十年度ニ於テハ右ノ中二十系統ヲ選ビ收量調査ヲナスノ計劃ナリ

ニ, 大正九年度着手純系淘汰試驗

本縣ニハ糯ノ優良品種少キヲ以テ之ガ改良ヲナス目的ヲ以テ大正九年度ヨリ山崎糯'御前糯'ノ二品種ニツキ純系淘汰試驗ヲ行ヒタリ,右二品種ヲ選ビタルハ本縣ニ於ケル糯中栽培反別多キト品種試驗ノ結果良好ナリシトニ依ル本試驗ノ經過下ノ如シ

品 種 名	取寄先數	初年目 栽植株數	初年目 選拔株數
山崎糯	8	8,400	70
御前糯	11	10,530	70

第廿一 自然雜種ニ依ル品種育成試驗 (繼續第六年)

大正四年度着手純系淘汰試驗愛國系統中大正五年度ニ於テ自然雜種ニ原因シ分離ヲナシツ、アル雜種系統ヲ發見シ之ヲ第二代ト見做シ大正六年度ニ於テ第三代六十家族ヲ分離栽培シ更ニ選抜分離シテ大正七年度第四代百家族トナシ前年度ニ於テハ第五代百家族ヲ栽培シ本年度ハ更ニ之ヲ第六代二百四十家族ニ分離シテ特性調査ヲ行ヒタル結果有望ノモノ多キヲ以テ更ニ試驗調査ヲ進メンガタメ四百五十系統ヲ選抜

セリ

第廿二 人為雜種ニ依ル品種育成試験 (繼續第二年)

本縣ニ適スル新優良品種ヲ育成センガ爲大正八年度ニ左記ノ組合セニ依ル雜種ヲ作り大正九年度ニ於テハ此第一代ヲ栽培シタリ

1	二本三5ノ36號×愛國5ノ35號
2	中生高宮5ノ34號×愛國5ノ35號

陸 稻 ノ 部

第一 品種比較試験 (繼續第十年)

本試験ハ各地方ヨリ品質優良收穫多量ナル品種ヲ集メ其ノ優劣ヲ比較調査シ本縣ニ適スル良種ヲ選抜決定セントスルニアリテ本年度コレニ供用セル品種ハ久藏、氷川、關取、秩父糯、早生粳、糯、中生粳、藤藏糯、黒髭選出、尾張糯、在一九號、在三六號ノ十二品種ナリ、本年度ハ發芽當時蟲害大ナリシ爲成績ニ誤差ヲ生ゼン事ヲ虞レ收量調査ヲ見合セタリ

第二 純系淘汰試験 (繼續第四年)

本試験ハ品種比較試験ノ結果優良ト認メタル江曾島糯ニツキ大正六年度ニ於テ縣下五ヶ所ヨリ材料ヲ蒐集シ二千三百七十株ヲ栽培シ二年目ニ於テ六十系ヲ栽培シテ特性調査ヲ行ヒ第三年目ニ於テハ之ヨリ選抜セル十四系ヲ栽培試験セリ、而シテ本年度ハ蟲害大ナリシ爲收量調査ヲ見合セタルガ大正十年度ニ於テ更ニ十系ニツキ收量調査ヲ行フノ計畫ヲ樹テタリ

大 豆 ノ 部

第一 品種比較試験 (繼續第九年)

本試験ハ從來本場ニ於テ試験ノ結果優良ト認メタル品種中ヨリ最優良ニシテ本縣下ニ必適ノ品種ヲ選抜シタル殘餘ノ品種ト更ニ新ニ蒐集

セル品種トニ就キ試験ヲ行ヒ詳細ニ其ノ優劣ヲ調査シ以テ地方必適ノ品種ヲ決定セントスルニアリ、本年度ニ於テハ前年ニ引續キ十六品種ニ就キ試験セリ、右ノ中比較的優良ナル品種ノ成績概要下ノ如シ

品 種 名	反當子 實收量	子 實 質	品 種 名	反當子 實收量	子 實 質
白 玉	1.231	上ノ中	陸 羽 二 十 六 號	2.024	上ノ下
陸 羽 六 號	1.814	上ノ下	刈 羽 瀧 谷 (標 準)	0.947	
同 十 號	1.985	上ノ中			

第二 純系淘汰試験 (繼續第四年)

本試験ハ品種比較試験ノ結果優良ト認メタル赤莢、瀧谷ノ二品種ニツキ淘汰ヲ行ハントスルモノニシテ大正六年度縣下各地ニ二十九ヶ所ヨリ材料ヲ蒐集シ赤莢四千六十個體瀧谷二千五百個體ヲ初年目ニ於テ栽培シ之レヨリ選抜シタルモノ各六十系ヲ第二年目ニ栽植シテ特性調査ヲ行ヒ大正八年度ハ赤莢、瀧谷各十四系統ニツキ收量調査ヲ行ヒ本年度ハ前年選抜シタル十二系統ヲ供試セルモ發芽當時蟲害甚ダシクシテ成績ニ於ケル誤差ノ大ナルヲ虞レ收量ノ調査ヲ省ケリ

第三 綠肥大豆品種比較試験 (繼續第六年)

本試験ハ各地方ニ栽培セラル、綠肥大豆ノ品種ヲ蒐集シ其優劣ヲ比較シ本縣ニ必適ノ品種ヲ決定セントスルモノニシテ本年度ニ於テハ前年度栽培試験セル十一品種中比較的有望ナリシモノ七品種ニ就キ試験セリ、而シテ本年度迄ノ試験成績ニヨレバいざり、陸羽九號、陸羽十一號等比較的良好ノ成績ヲ示シツ、アリ

品 種 名	開 花 期	本年度生草量	三ヶ年平均
い さ り	8.20	705.000	668.000
陸 羽 九 號	7.25	440.000	528.088
陸 羽 十 一 號	7.30	644.000	537.767

第四 株間廣狹對施肥量試験 (新 設)

本試験ハ大豆ノ株間ノ廣狹ト施肥量トノ關係ガ收量ニ及ボス影響ヲ知ラントスルモノニシテ本年度ノ成績ニヨレバ施肥量ノ多少ニ拘ハラズ株間ノ狹キモノ收量多シ尙ホ繼續試験セントス

第五 移植期試験 (新設)

本試験ハ前作ノ關係ニテ適期ニ播種スルヲ能ハザル場合ニ於ケル移植期ノ早晚ト收量トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ更ニ直播ノモノト收量ニ幾何ノ差異アルヤヲ比較シタルニ本年度ノ成績ハ移植期ノ遅延スルニ從ヒ收量ヲ減ジ又直播ノモノハ移植ノモノヨリモ收量多シ尙ホ試験ヲ繼續セントス

第六 收穫期調査 (新設)

本試験ハ大豆ノ收穫期ト收量並ニ品質ニ及ボス影響ヲ知ラントスルモノニシテ本年度ノ成績ニヨレバ收穫時期ノ遅ルニ從ヒ收量ヲ減ジタリ尙ホ試験ヲ繼續セントス

大 麥 ノ 部

第一 麥豐凶考證試験 (繼續第十七年)

本試験ハ其ノ年ノ麥ノ豐凶ヲ豫想スルト同時ニ監督官廳及主務者ヘ報告スルノ基礎ヲ得ルニアリテ本年度モ各期ニ於テ夫々報告發表セリ

第二 栽培法試験 (繼續第五年)

本試験ハ栽培法ヲ異ニシタル場合ニ於ケル麥ノ收量ヲ知ラントスルモノニシテ低畦,高畦,平畦,四寸溝二行播,一尺五寸廣播ノ五ツノ方法ニツキ試験シタルニ低畦及高畦ハ野鼠害ヲ蒙リ收量ヲ調査スルヲ能ハザリシモ其ノ他ノ三區ニ於テハ廣播區ノモノ收量多シ尙ホ試験ヲ繼續シコレヲ確メントス

第三 窒素質肥料種類試験 (繼續第五年)

本試験ハ窒素質肥料ノ肥効ヲ知ラントスルモノニシテ本年度ノ成績

下ノ如シ尙ホ試験ヲ繼續セントス

肥料名	大正八年度成績	前三ヶ年平均成績	肥料名	大正八年度成績	前三ヶ年平均成績
大豆 粕	2.412	1.600	石灰 窒 素	2.204	1.018
硫酸安母尼亞	2.612	1.737	米 糠	1.648	1.300
人 尿 尿	1.094	1.530	種 粕	1.513	1.368
糠 粕	2.177	1.737			

備考 大正六年度ハ雪害ノ爲收量調査ナク

第四 磷酸質肥料種類試験 (繼續第五年)

本試験ハ何レノ肥料ニ含有スル磷酸分ガ最モ有効ナルヤヲ知ラントスルモノニシテ本年度ノ成績及前三ヶ年平均成績ヲ擧グレバ次ノ如シ

肥料名	大正八年度成績	前三ヶ年平均成績	肥料名	大正八年度成績	前三ヶ年平均成績
強過磷酸石灰	1.806	2.177	米 糠	1.680	1.890
蒸 製 骨 粉	1.900	2.145	無 磷 酸	1.121	1.292
トーマス磷肥	1.819	(2) 1.930			

第五 窒素對磷酸加里施用量試験 (繼續第五年)

本試験ハ施肥量ヲ増加シ多收ヲ得ントスル場合ニ於ケル窒素ニ對スル磷酸及加里ノ適當ナル割合ヲ知ラントスルモノニシテ本年度ニ於ケル成績ヲ前三ヶ年平均成績ト比較對照スレバ次表ノ如シ

區 名	試 驗 別	大正八年度成績	前三ヶ年平均成績
1	窒 素	2.500	1.697
	磷 酸	2.000	
	加 里	1.800	
2	窒 素	2.500	1.638
	磷 酸	2.500	
	加 里	2.300	
3	窒 素	2.500	1.728
	磷 酸	3.000	
	加 里	2.800	

4	窒素	3.500	1.778	2.367
	磷	2.000		
	加里	1.800		
5	窒素	3.500	1.955	2.432
	磷	2.500		
	加里	2.300		
6	窒素	3.500	1.923	2.300
	磷	3.000		
	加里	2.800		

第六輪栽法試験 (繼續第五年)

本試験ハ輪栽ト麥ノ生育及收量トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ本年度及前三ケ年平均成績ヲ擧グレバ次ノ如シ

試験別	大正八年度成績	前三ケ年平均成績	試験別	大正八年度成績	前三ケ年平均成績
大豆	1.138	2.197	陸稻大豆合作	1.260	2.103
稻黍	.864	2.415	陸稻	1.104	2.043

第七移植期試験 (繼續第四年)

本試験ハ麥ノ生育期間中不時ノ事變ノ爲下種セル畑ニ被害アリテ而モ既ニ播種ノ適期ヲ失シタル場合ニ於テ他ニ育成セル麥苗ヲ移植セバ如何ナル結果ヲ見ルヤヲ知ラントスルモノニシテ本年度及前三ケ年平均成績下ノ如シ

移植期	大正八年度成績	前三ケ年平均成績	移植期	大正八年度成績	前三ケ年平均成績
十月二十九日	2.124	1.964	十一月二十八日	1.779	1.719
十一月八日	1.660	1.794	十二月八日	1.664	1.638
十一月十八日	1.335	1.756	四月十日	1.449	1.203

第八施肥量試験 (繼續第二年)

本試験ハ施肥量ノ多少ト收量トノ關係ヲ知ラントスルモノニシテ當

場標準施肥量ノ三割減,三割増,六割増,十割増ノ各區ヲ設ケ試験シタルニ本年度及前年度ノ成績下ノ如シ

試験別	大正八年度成績	大正七年度成績	試験別	大正八年度成績	大正七年度成績
三割減肥料	—	1.351	六割増肥料	1.870	2.400
普通肥料	2.097	1.873	十割増肥料	2.208	2.667
三割増肥料	1.996	2.005			

備考 本年ハ野鼠害ヲ蒙リタル爲成績低キナリ

第九土入回数試験 (繼續第二年)

本試験ハ土入ノ時期及其回数ガ麥ノ收量ニ及ボス影響ヲ知ラントスルモノニシテ本年度及前年度ノ成績下ノ如シ

試験別	大正八年度成績	大正七年度成績
秋季無土入 春季二回土入	2.140	1.805
同 一回	1.861	1.731
同 二回	1.457	1.757
同 一回 春季無土入	2.182	1.800
同 一回	1.843	1.785
同 三回	2.035	1.804

第十品種比較本試験 (繼續第二年)

本試験ハ從來ノ試験ノ結果最モ優良ナルモノヲ獎勵原種トシテ原種圃ニ移シタル殘餘ノ品種並ニ後記品種比較豫備試験ノ結果有望ト認メタルモノニ付詳細ニ其優劣ヲ比較シ地方必適ノ良品種ヲ選定セントスルモノニシテ本年度ニ於テハ下記十二品種ニ就キテ試験シタルモ冬期中野鼠ノ害甚大ニシテ信據スルニ足ル成績ヲ知ル能ハザリシ爲更ニ繼續試験セントス

赤 塚	雄 勝	御 前	大 麥 戊
六角シユバリー	谷 風	犬 麥 甲	ケープ(XI羽)
甲二三種	陸 羽 二 號	ケープ(日本農園)	南魚沼在來種

第十一 品種比較豫備試験 (繼續第七年)

本試験ハ各地方ニ於ケル優良品種ヲ蒐集シ本縣ニ適スルヤ否ヤヲ試
ミ有望ト認メタルモノハ之ヲ上記品種比較本試験ニ移サントスルモノ
ニシテ本年度ニ於テハ下ノ七品種ニ就キテ試験シタルモ冬季中野鼠ノ
害甚大ニシテ正確ナル收量調査ヲ行フ能ハザリシ爲メ其儘試験ヲ繼續
スルコトニセリ

三月	麥	甲大二坊主ケーブ	五畝四石	濠	洲
細	麥	細	氣高六角		

第十二 純系淘汰試験 (繼續第四年)

本試験ハ品種比較試験ノ結果優良ト認メタル長岡及今朝白ノ二品種
ニツキ淘汰ヲ行ハントスルモノニシテ大正五年度ニ於テ縣下各二ヶ所
ヨリ材料ヲ蒐集シ各品種二千六百株ヲ栽植シ之ヨリ選抜シテ第二年目
各六十系統ヲ栽培シテ特性調査ヲ行ヒ長岡廿一系今朝白廿七系ヲ選抜
セシモ圃場ノ都合上右ノ内最モ有望ナルモノ各十六系ニ就キテ收量調
査ヲ行ヒ殘餘ハ圃場ニ餘裕ヲ生ズル迄保存センガ爲特性調査ヲ兼ネテ
採種用トシテ若干ノ栽培ヲナスニ止メタリ而シテ本年度ニ於テハ鼠害
ノ爲メ信據スベキ收量調査ノ成績ヲ得ル能ハザリシヲ以テ兩品種共十
六系宛ニ就キ尙ホ引續キ次年度ニ於テ試験ヲ行ハントス

小 麥 ノ 部

第一 品種比較本試験 (繼續第四年)

本試験ハ從來ノ試験ノ結果成績最モ優良ト認メタルモノヲ獎勵品種
トシテ原種圃ニ移シタル殘餘ノ品種及新ニ後記品種比較豫備試験ヨリ
轉入セルモノニ就キ詳細ニ其優劣ヲ比較シ當地方ニ必適ノ良種ヲ選定
セントスルモノニシテ本年度ニ於テハ左記十二品種ニ就キテ試験セル
モ冬季中鼠害ヲ蒙ル事甚大ニシテ收量調査ヲ行フコト能ハザリシヲ
以テ特性ノ調査ヲナシタルニ止メ次年度ニ於テ繼續試験ヲ行ハントス

ドーストラリヤ	白	川	赤皮赤(山形)	仙	北
カリフォルニヤ	富	岡	甲一六伊賀筑後	甲四〇白小	麥
フ	ル	ツ	マーチンスアンバー	丸	珍
				古志郡在來種	

第二 品種比較豫備試験 (繼續第六年)

本試験ハ各地ヨリ優良ト認メタル品種ヲ蒐集シ本縣ニ適スルヤ否ヤ
ヲ試験シ有望ト認メタルモノハ上記品種比較本試験ニ移サントスルモノ
ニシテ本年度ニ於テハ四十品種ニ就キテ試験セリ

農 具 ノ 部

本年度ニ於テハ新農具購入ニ關スル經費豫算ヲ計上スルコト無カリ
シモ製作者ノ依頼ニ依リ數種ノ農具ニ就キ試用又ハ鑑定ヲ行ヘリ

氣 象 觀 測 ノ 部

毎日午前十時ニ於テ乾球、濕球、最高氣温、最低氣温、降水量蒸發、地中
温度、風向、風力、天氣、日照時間、其他ノ氣象要素ニツキ觀測ヲ行ヒタリ

今 摺 米 試 験 ノ 部

第一 今摺米改良ニ關スル試験 (新 設)

本年度ヨリ農商務省ノ委託ニ依リ補助金ヲ受ケテ本試験ニ着手セリ
本年度ハ試験初年度ナル爲メ倉庫其他ノ設置不充分ノ點アリシト粉買
入期後レタルトニ依リ供試粉ノ數量ヲ設計ノ半量トシテ試験セリ又其
水分等ニ至リテモ設計ニ示サレタルガ如キ莫大ナル粉ヲ得ルコト能ハ
ザリシモ右ノ供試品ニ就キ目下試験繼續中ナリ

委 托 試 験 ノ 部

第一 麥作模範作地 (繼續第二年)

麥作ノ模範ヲ示スニハ一區域ノ面積ニテハ實際ノ効果少ナキヲ認
ムケ所五反歩以上ノ集團地ニ對シ實地指導ヲナセルガ本年度ノ成績
下ノ如シ

郡名	町村名	品 種 名	反當收量
佐 岩 同 中 中 西 南 同 同 中	渡 船 同 頸 蒲 頸 蒲 原 新	吉 平 同 鳥 賀 阿 松 磯 大 新 同 新	井 林 坂 浦 尾 部 面 湯 關
		大 麥 長 岡 同 飛 驒 小 麥 橫 澤 大 麥 長 岡 同 同 同 同 小 麥 赤 皮 赤 大 麥 長 岡	石 1.280 2.000 1.200 1.100 1.850 3.980 2.162 1.536 2.000 1.500 1.000

第 二 水稻品種比較委託試驗 (繼續第四年)

本縣ノ如ク面積廣大ニシテ氣候風土ノ事情千差萬別ナル所ニアリテ
ハ特殊ノ地方ニ必適ノ品種ヲ選定スルノ必要アルト同時ニ本場ニ於テ
選定セル優良品種ノ地方的適否ヲ決定スルコト甚ダ必要ナリ本試驗ハ
此ノ目的ヲ以テ施行セルモノニシテ本年度ニ於テハ南蒲原郡内湛水地
二ヶ所,古志郡内湛水地二ヶ所,及ビ東頸城郡内山間地二ヶ所計六ヶ所
ニ於テ七乃至十品種宛ノ試驗ヲ行ヒタル結果湛水地方面ニテハ新一
本,新二本,二本三,新石白,石白,美濃早稻,新愛國等,山間部地方ニテハ改
良愛國,新愛國,新岩,新大場,新石白,坊主愛國等概シテ優良ナルヲ認メ
タルヲ以テ更ニ引續キ次年度ニ於テモ本試驗ヲ繼續シ當場ニ於テ改良
又ハ育成セル新品種ヲ供試セントス

原 種 圃 ノ 部

第 一 水 稻 原 種 圃

水宿原種圃ハ古志郡栖吉村大字成願寺ニ設置シ當場ノ直營トス,其
反別二町歩ニシテ本年度ニ作付シタル品種別反別,生産數量,及配付數
量下ノ如シ

品 種 名	作付反別	生産種粍量	配付種粍量
新 一 本	114	1.630	.930
新 二 本	140	1.820	1.478
新 高 岡	112	1.030	.678
新 愛 大 場	276	3.410	3.251
新 大 場 下	148	.810	.801
新 岩 光	90	.740	.732
新 米 野	87	1.080	.994
水 野 錦	93	.790	.769
石 龜 白 尾	30	.640	.614
中 生 高 宮	544	2.720	1.535
新 大 銀 高 早 田 早 稻	351	3.860	3.847
早 坊 主	208	2.230	1.674
二 本 三	344	4.660	4.364
改 良 愛 國	181	1.640	1.499
越 中 坊 主	124	1.140	1.030
計	117	1.060	.958
	301	3.500	1.646
	145	1.660	.813
	1,020	10.730	10.535
	211	.840	.570
	172	1.660	.819
計	4,903	47,530	39,537

備考 合計反別二町歩ニ達セザルハ苗代,畦畔其他ヲ除去セルニヨル

第 二 陸 稻 原 種 圃

前年度ニ繼續シ北魚沼郡堀之内村及城川村ニ合計三反歩ヲ委託設置
シタリ,而シテ其ノ品種別反別及ビ生産數量並ニ配付數量下ノ如シ

品 種 名	作付反別	生産數量	配付數量
江 曾 島 糯	200	1.500	1.500

戦	捷	1	1.000	.680
計		3	2.500	2.180

第三 麥 原 種 圃

麥原種圃ハ大麥一反五畝歩小麥一反歩ニシテ之ヨリ生産セル品種別數量及配付數量下ノ如シ

品 種 名	生 産 量	配 付 量	品 種 名	生 産 量	配 付 量
大 麥 長 岡	.600	.600	小 麥 赤 皮 赤	.210	.210
同 今 朝 白	.600	.600	同 マーチンスアンバー	.140	.140
同 六角シユパリー	.600	.600	計	2.500	2.500
小 麥 横 澤	.350	.350			

更ニ原種ノ配付先別數量ヲ擧グレバ左ノ如シ

區 分	大 麥	小 麥
採種圃ニ配付セルモノ	.750	.250
參觀人ニ配付セルモノ	.150	.050
直接農家ニ配付セルモノ	.880	.382
其 他	.020	.018
計	1.800	.700

第四 大豆 原 種 圃

大正八年度ヨリノ新設ニシテ古志郡栖吉村ニ設置シ當場之ヲ直接經營トス、其ノ反別一町歩ニシテ本年度ニ於ケル品種別生産數量及配付數量左ノ如シ、但シ大正八年度ハ中魚沼郡ニ委託設置セリ

品 種 名	生 産 量	配 付 量	品 種 名	生 産 量	配 付 量
水 滯	2.374	2.374	岩 船 瀧 谷	1.029	1.029
生 娘	1.551	1.520	赤 茨	.625	.625
刈 羽 瀧 谷	.560	.560	計	6.139	6.108

第五 甘 藷 原 種 圃

甘藷原種圃ハ古志郡石津村大字岩野ニ設置シ面積五反歩ニシテ栽培品種ハ紅赤、金時及八幡ノ三品種トス、生育狀況ハ紅赤、金時ハ概シテ良好ナリシモ八幡ハ稍不良ナリシ爲メ總收量千百廿一貫ニシテ内屑藷六十四貫六百匁ヲ占ム、而シテ冬季貯藏中ノ成績極メテ良好ニシテ腐敗スルモノ殆ンドナク、重量ノ減少歩合ハ三割内外アリタルタメ當場原種圃種藷トシテ百貫各都市採種圃用トシテ七百十三貫ヲ配付シタリ

第六 馬 鈴 薯 原 種 圃

馬鈴薯原種圃ハ古志郡栖吉村大字野崎ニ設置シ面積五反歩ニシテ之レガ栽培品種ハ「アーリーローズ」ナリ、氣候ノ關係上病虫發生シ之ガ被害ヲ受ケ收量割合ニ少ナク總收量七百貫ヲ收ム、而シテ内屑薯ハ約二百貫ヲ得タリ、冬季貯藏中重量減少歩合ハ約三割ニシテ本場原種圃用種薯トシテ百十貫各郡採種圃用トシテ二百二十貫ヲ配付シタリ、屑薯ハ害虫ノ被害著シク賣品トスルコトヲ得ズ比較的被害僅少ナルモノヲ秋作馬鈴薯試作用種薯ニ供セリ

採 種 圃 ノ 部

第一 米 採 種 圃

新潟縣米獎勵原種普及計劃ニ基キ第一次採種圃四十町歩ヲ郡市又ハ郡市農會ノ經營トシテ設置セリ而シテ第一次採種圃ハ新潟縣農事試驗場指定採種圃ト稱シ農事試驗場ヨリ原種ヲ無償配付セル外其ノ面積ニ應ジ補助金ヲ交付シテ之ガ經營ヲ行ヒタリ、第一次採種圃中郡、郡農會ニ於テ直營セシモノアリシモ多クハ其ノ管内ニ於ケル精農家ヲ選定シ担當料ヲ支給シ委託栽培ヲ行ヒタリ、其ノ個所數百二十一ヶ所ニシテ旱害、水害、混種其他ノ理由ニヨリ採種不適當ト認メ廢棄セシモノ六ヶ所一町三反歩アリシ爲メ採種ヲ行ヒタルハ三十八町七反歩ナリ、今其成績ヲ擧グレバ下ノ如シ

1, 郡市別品種別反別

郡 市 名	石白	高田早稻	中生高宮	大場	改良愛國	二本三	越中坊主	越中銀葉	岩ノ下	早坊主	龜ノ尾	越前	計
-------	----	------	------	----	------	-----	------	------	-----	-----	-----	----	---

北	蒲原	20		50	100	20				70	200			
中	蒲原	70	10	10	260	70	10		10	10	450			
西	蒲原	50	50		80	40			150	80	450			
南	蒲原	110		10	20	180	30	20		30	400			
東	蒲原					35				10	45			
三	島	30	10	30	10	20		20		30	200			
古	志	90	20			30		10	10	50	220			
北	魚沼	20		10		50		30	10	10	130			
南	魚沼	10	5	5		100		5	10	5	150			
中	魚沼	20	20	10		70			10	10	150			
刈	羽	30		30	40	80		10		10	200			
東	頸城			20	20	50		10	5	5	150			
中	頸城	20	50	30	90	190		30		40	450			
西	頸城	60	10			30			10	10	120			
岩	船	30		10		50				80	170			
佐	渡	10	10			30				50	200			
新	湯						5				5			
長	岡	5									5			
高	田			5							5			
合	計	575	185	170	230	1355	165	135	45	70	320	410	100	4000

備考 北蒲原郡ニテ前表ノ外ニ水野錦五反歩、新庄内七反歩米光一町二反歩ヲ設置ス合
計反別ハ右品種ヲ加算シタルモノトス

□、採種圃中純良種子採種不能トシテ廢棄セル反別

郡	名	品	種	名	反	別
中	蒲原	高	田	早	稻	一 反 歩
同	上	改	頁	愛	國	五 反 歩
三	島	改	龜		尾	二 反 歩
中	魚沼	石			白	二 反 歩
東	頸城	大			場	一 反 歩
南	蒲原	中	生	高	宮	二 反 歩
計						一 町 三 反 歩

ハ、郡市別生産物配付數量

郡市名	反別	生産物配付數量	備考
-----	----	---------	----

北	蒲原	反	50.0	石	100.000
中	蒲原		45.0		47.780
西	蒲原		45.0		90.000
南	蒲原		40.0		74.000
東	蒲原		4.5		9.000
三	島		20.0		30.000
古	志		22.0		44.000
北	魚沼		13.0		26.000
南	魚沼		15.0		30.000
中	魚沼		15.0		30.000
刈	羽		20.0		40.000
東	頸城		15.0		28.000
中	頸城		45.0		50.000
西	頸城		12.0		24.000
岩	船		17.0		28.000
佐	渡		20.0		40.000
新	湯		.5		1.000
長	岡		.5		1.000
高	田		.5		1.000
計			400.0		699.780

{ 廢棄セルト希望者少ナキヨ
{ ヲ残余ヲ生シタリ

{ 二反歩廢棄ノタメ限定ヨリ
減少ス

{ 二反歩廢棄ノタメ限定ヨリ
減少ス

{ 廢棄セルモ採種量多キタメ
{ 限定通り配付ス

{ 一反歩廢棄セルタメ限定ヨリ
{ 減少ス

{ 希望者少ナキタメ限定ヨリ
減少ス

米採種圃事業ニ關シ施行セシ重ナル事項

一、經營ニ關スル事項

イ、擔當者協議會開催

採種圃經營上重要ナル事項ノ外栽培管理並ニ採種上必要ナル
事項ニツキ各郡市毎ニ春季擔當人ヲ集メ協議會ヲ開催シテ採種
圃ノ經營上遺憾ナキヲ期セリ

ロ、印刷物配付

擔當人心得書ヲ配付シテ種子ノ貯藏管理苗代本田ノ位置 選
定其ノ他採種圃擔當人トシテ重要ナル事項ニツキ注意指導セリ
栽培管理簿ヲ各擔當人ニ配付シ採種圃栽培上重要ナル事項ヲ
其都度記入セシメ本場並ニ郡市又ハ郡市農會指導監督員ヲシテ
諸般ノ指導注意ヲ行ヒタリ

二、指導監督ニ關スル事項

- (イ) 挿秧ニ際シ指導監督
挿秧ニ際シテハ特ニ各郡市農會長ニ依頼シ郡市農會技術員ヲ
現地ニ立會ハシメ一本植勵行ヲナサシメタリ
- (ロ) 病虫害豫防驅除
病虫害ノ豫防驅除ニ關シテハ郡市又ハ郡市農會ヲシテ常ニ發
生ノ模様ヲ報告セシメタル外特ニ螟虫驅除ニ就テハ郡市長又ハ
郡市農會長ニ依頼シ其ノ防除ニ努メタリ
- (ハ) 異變種除去指導監督
異品種變種ノ除去ニ就テハ特ニ郡市又ハ郡市農會技術員ヲシ
テ數回指導監督ヲ行ハシメタル外特ニ各郡市ニ對シ本場ヨリ監
督員ヲ出張セシメ嚴重ニ之レガ除去ヲ勵行セリ
- (ニ) 生産種籾ノ調製監督
調製ニ際シテハ品種混淆ノ虞レ不尠ニ付特ニ郡市又ハ郡市農
會長ニ依頼シテ實地ニ技術員ヲ立合ハシメ之レガ調製ノ監督ヲ
嚴重ニセリ
- (ホ) 生産籾ノ検査
各郡市毎ニ其採種圃生産籾ノ検査ヲ行ヒ配付ニ當リテモ容器
其他ニ付嚴重ニ注意ヲナシ遺憾ナキヲ期セリ

第二 麥 採 種 圃

麥採種圃ハ大麥一町五反歩小麥五反歩計二町歩ヲ縣内特ニ麥ノ栽培
ニ適セル郡ヲ選ビ十三ヶ所ニ設置シ其ノ成績ヲ見ルニ寒害、雪害、鼠害
等極メテ少ナク赤澁病、斑葉病ハ點々見タリト雖モ被害程度僅少ニシ
テ惡影響少ナカリキ、今農家ニ對シ直接配付セル種子ノ數量及採種用
種子トシテ配付セル數量ヲ舉グレバ下ノ如シ

(イ)	大	麥	十六石五斗	直接農家ニ配付シタルモノ
	小	麥	二石八斗	
(ロ)	大	麥	一石四斗	採種圃用トシテ配付シタルモノ
	小	麥	七斗	

尙麥採種圃事業ニ關シ施行セル重ナル事項次ノ如シ

- (イ) 播種期ニ際シ監督員出張ノ上施肥整地播種等ニ就キ實地ニ指

謀監督セリ

- (ロ) 融雪後監督員ヲ出張セシメ雪害鼠害等ニ就キ調査ヲ行ヒタル
外出種期ニ於テハ混種除去ノ爲メ監督員ヲ出張セシメ異品種變種
ヲ除去シタリ
- (ハ) 以上ノ外總テ米採種圃ニ準ジタリ

第三 大豆 採 種 圃

大豆採種圃ハ郡又ハ郡市農會ノ經營トシテ拾六町壹反五畝歩ヲ設置
セリ而シテ該採種圃ニ對シテハ農事試驗場ヨリ原種ヲ無償配付スル外
其面積ニ應ジ補助金ヲ交付シテ之レガ經營ヲ行ヒタリ經營方法ハ總ベ
テ其管内ニ於ケル精農家ヲ選ビテ擔當料ヲ支給シ委託栽培ヲ行ヒタリ
採種圃ノ個所ハ七十八ヶ所ニシテ其ノ成績次ノ如シ

大豆採種圃別	反 別	大豆採種圃別	反 別
赤 莢	三町六反歩	水 潜	二町二反歩
刈 羽 瀧 谷	四町四反歩	生 類	三町二反歩
岩 船 瀧 谷	二町七反五畝歩	計	十六町一反五畝歩

大豆採種圃別	配付數量	大豆採種圃別	配付數量
赤 莢	四十三石二斗	水 潜	二十四石
刈 羽 瀧 谷	五十二石八斗	生 類	三十八石四斗
岩 船 瀧 谷	三十四石	計	百九十二石四斗

大豆採種圃ニ關シ施行セシ重ナル事項

- (イ) 大豆採種圃ノ經營ニ對シテハ其郡市又ハ郡市農會ニ縣農事試
驗場ヨリ一反歩金六圓ノ補助金ヲ交付セリ
- (ロ) 大豆採種圃ニ用フル原種ハ縣農事試驗場ヨリ無償配付ヲ行ヒ
タリ
- (ハ) 大豆採種圃ハ郡市又ハ郡市農會ニ於テ其管内ニ於ケル精農家
ヲ選ビ委託栽培ヲ行ヒタリ而シテ之レガ指導ハ主トシテ郡市又ハ
郡市農會技術員之レニ當リ其監督ハ縣農事試驗場ニ於テ行ヒタリ
- (ニ) 以上ノ外總ベテ米採種圃ノ例ニ準ゼリ

第四 甘藷馬鈴薯採種圃

甘藷採種圃ハ各郡市農會ニ於テ之レヲ設置シ縣農事試驗場ヨリ一反歩ニ對シ金拾圓宛ノ補助金ヲ交付セリ而シテ大正九年度ニアリテハ甘藷一町四反七畝歩、馬鈴薯一町二反歩ニシテ個所數甘藷二十八ヶ所、馬鈴薯二十四ヶ所ナリトス

而シテ之等ノ採種圃ヨリ生産シ當業者ニ配付シタル數量ハ甘藷三千六百七十五貫馬鈴薯三千貫ナリキ尙甘藷、馬鈴薯採種圃ニ對シ施行シタル主ナル事項下ノ如シ

- (イ) 採種圃ニ要スル種苗ハ縣農事試驗場ヨリ無償配付セリ
- (ロ) 異變種除去、貯藏法指導、其他米麥採種圃ニ準ジ採種上遺憾ナキヲ期セリ

□ 種子配付ノ部

原種圃生産種子以外ニシテ配付シタルモノハ水稻ニ於テハ改良美濃坊主二升八合、御前糯四斗二升、山崎糯一斗九升、大麥ニ於テハ長岡六升今朝白二升、小麥ニ於テハ赤皮赤八升一合、横澤二升、マーチンスアンバー四升六合ナリ

尙購入斡旋セル數量下ノ如シ

水 稻	改 良 愛 國	二石二斗
	中 生 高 宮	八斗
	龜 尾	十二石四斗
大 麥	銀 葉 場	四斗五升
	大 計	一石四斗
	長 飛 岡 驛	十七石二斗五升
	六 角 シ ュ バ リ 一	五石八斗
小 麥	計	三石四斗
	赤 皮 赤 澤	一石三斗
	赤 楯	十石五斗
	マーチンスアンバー	四石六斗
	計	三石二斗
		七斗二升
		八石五斗二升

園 藝 部

□ 果 樹 ノ 部

第 一 李

本園ハ結果不良ノ原因ニ就キ調査研究ヲ遂グルト共ニ栽培管理ノ方法ヲ一般ニ示スタメ設置セルモノニシテ其ノ成績ヲ概説スレバ李ハ縣下一般ニ剪定整枝其他ノ手入ヲ行フモノ殆ンドナク皆放任主義ヲ採リツ、アルヲ以テ害虫發生スルノミナラズ枝條徒長シテ最重要ナル短結果枝ノ發生少ナキニ依ルモノ、如キヲ以テ前年來斷根ヲ行ヒ枝條ノ勢力ヲ抑制セルニ頗ル結果良シク八年度ニ於テ一樹平均二百花以上ノ開花結實ヲ見、九年度ハ三百花以上ノ開花結實ヲ見枝條ノ發育益々良好ナルヲ認ム

第 二 桃

本園ニ於テハ各種ノ品種ヲ栽植シ適否ノ如何ヲ調査シ栽培管理ノ方法ヲ示シ特ニ剪定宜シキヲ得バ下枝枯死ヲ來スモノニ非ザル實狀ヲ示スモノニシテ七年度大雪ノ爲メ損傷セル枝ハ次第ニ回復シ來リ枝條ノ發育良シク結果枝發生多ク結實良好ナリキ又下枝ノ發生頗ル良シク剪定法宜シキヲ得バ枯死ヲ防止スルコトヲ實證セリ

第 三 櫻 桃

本縣獎勵品種ト他ノ二三ノ有望種ヲ栽培シテ一般ニ培養管理ノ方法ヲ示スト共ニ各種ノ成績ヲ比較セントスルモノニシテ結果年齢ニ漸ク到達シ各品種多少ノ開花結實ヲ見タルモ地下水高ク枝條ノ發育旺盛ニシテ結果枝ノ發生稍良好ナラザルモ培養宜シキヲ得タル爲メ明年度ニ於テハ各品種共充分結果ノ見込ナリ

第 四 栗

優良品種ヲ數種栽植シ比較研究ヲナスモノニシテ地下水高ク土地低濕ナルタメ銀寄其他丹波系統ノ優良種ノ發育稍不良ニシテ樹矮小ニシテ生育不良ナリ之レ品種ノ缺點ニ非ズシテ土性ノ不適ニ依ルナリ咸從

甲州丸栗等ハ發育旺盛ニシテ却ツテ開花スルニ至ラズ斷根ヲ行ヒテ發育ヲ抑制セリ

第五 梨樹施肥期試驗

本試驗ハ縣内普通ニ行ハル、誤レル施肥期ノ改良ヲ行ハントシテ最適當ナル施肥期ヲ知ラントスルニアリ栽培後數ヶ年ヲ經過スレバ雪害多ク整一ナル枝條ノ發育ヲナサズ枯死スルモノヲ生ジ未ダ本試驗施行ニ至ラズ專ラ樹ノ培養ニ努メツ、アリ

第六 洋梨徒長枝處分ニ關スル研究

栽培ノ方法ヲ一般ニ示スト共ニ夏季簇生スル徒長枝ノ處分方法ニ就キ研究セントスルモノナリ、雪害ノタメ樹形ヲ形成スルコトヲ得ズ從ツテ未ダ試驗ニ着手スルニ至ラズ專ラ樹ノ培養整枝ニ努メツ、アリ

第七 苹果品種試驗

苹果栽培ハ本縣ニ適スルヤ又如何ナル品種ヲ選擇スベキカヲ試驗セントスルモノニシテ未ダ結果年齢ニ達セズ祝、旭等ニ於テ二三ノ開花結實ヲ見タルニ過ギズ專ラ培養管理ニ努メツ、アリ

第八 甘柿品種比較試驗

本縣ノ風土ニ適スルト認メラル、數種ヲ栽植シ比較研究セントスルモノナリ未ダ結果年齢ニ達スルモノ少ナク白乳、三國一、子成場ニ於テ二三ノ開花結實ヲ見タレバ枝條ノ發育狀態ヨリ見レバ明年度ノ結果狀態ハ良好ナリ

第九 澁柿整枝法試驗

如何ナル整枝法ヲ最モ良好トスルカヲ試驗スルモノニシテ特ニ雪害トノ關係ニ付キ詳細ニ調査セントス共ノ整枝法ハ矮性木立仕立、喬性木立仕立並ニ圓錐形仕立ノ三種ナレバ未ダ結果年齢ニ到達セズ專ラ培養ニ努メツ、アリ

第十 葡萄ノ整枝法試驗

栽培ノ方法ヲ示スト共ニ整枝法ノ利害得失ヲ研究セントスルモノニシテ其ノ整枝法ノ種類ハ左ノ如シ

1	ホーイブレン式	3	号	狀	5	種	作	以上ノ内播作りハ未ダ完成セザルモホーイブレン式最モ宜シクギューヨー式之ニ次ケニツフィン式号狀ハ良好ナラズ
2	ギューヨー式	4	ニツフィン式					

第十一 梨ノ品種改良

芽條變異又ハ交配ニ依リ生ジタル新品種ノ育成ヲナスモノニシテ本年度ハ晚三吉及長十郎ノ變異種ヲ接木セリ又長十郎×早生赤、晚三吉×早生赤等ノ交配ヲ作り其ノ種子ヲ採取セリ

第十二 和梨早生赤個體調査 (新 設)

本縣栽培和梨各品種中栽培面積ノ過半ヲ占ムル早生赤ヨリ優良ナル系統ヲ選抜センガ爲メ中瀧原郡早通村清水新一郎氏果樹園ニ於テ早生赤五拾本ニ就テ個體調査ヲ行ヒタリ

部 蔬菜ノ部

第一 茄子種子鹽素刺戟試驗 (繼續第二年)

茄子種子ヲ味噌中ニ貯藏シ播種スルキハ收量多シト稱シ農家ニ行ハレツ、アルモノナルガ是レ鹽素ノ刺戟ニ依ルモノ、如シ故ニ食鹽水ヲ作り其ノ内ニ種子ヲ浸漬シテ液ノ濃淡及浸漬ノ期間ガ收量ニ幾許ノ影響ヲ及ボスモノナルカヲ試驗研究セントス供試品種ハ中生山茄子ニシテ試驗別及成績下ノ如シ

試 驗 別	一本平均		被害歩合	健全株一本平均		收穫始	發芽歩合
	平均重量	個數		重量	個數		
准 標 準 區	1247	57.5	37.0	1488	70.5	7.3	—
標 準 區	1015	50.0	55.6	1542	75.2	7.6	50
水三合ニ食鹽五勺ヲ百七十日浸漬	980	42.3	70.3	1706	80.1	7.6	38
水三合ニ食鹽二・五勺ヲ百七十日浸漬	875	39.3	81.5	1865	92.1	7.5	13

水三合ニ食鹽一匁ヲ百 七十日浸漬	1384	68.5	20.9	1539	77.8	7.5	19
水三合ニ食鹽五匁ヲ四 十日浸漬	1135	52.7	59.3	1494	73.0	7.4	22
水三合ニ食鹽二・五匁 ヲ四十日浸漬	740	35.2	88.9	1723	81.3	7.5	27
水三合ニ食鹽一匁ヲ四 十日浸漬	1079	55.4	37.0	1275	67.2	7.5	48

備考 發芽試驗器ニヨリテ發芽歩合ヲ定ム

以上ノ成績ニ依レバ標準區並ニ食鹽水加用各區ノ收量及被害歩合ノ成績ハ區々ニシテ一定ノ結論ヲ下シ難シ、發芽歩合ハ食鹽水加用區ハ標準區ニ比シ著シク不良ナルコトヲ認ム、收穫ノ早晚モ成績一定セズ本試験ハ尙繼續施行セントス

第二 南瓜落果防止法試驗 (繼續第二年)

本縣ニ於ケル南瓜栽培ノ進歩遅々タルハ落果ヨリ來ル影響甚大ナリト思惟ス、依リテ如何ナル手段ヲ以テセバ落果ヲ防止シ得ルヤヲ試驗セントス供試品種ハ菊座ニシテ試驗別及成績次ノ如シ

試驗別	反當收量	大正八年度 反當收量	累年平均
本葉六枚ニテ摘心シ四本ノ子蔓 出シ結果部ヨリ一枚殘シ切ル	709.860	821.400	765.630
同上 三枚殘シテ切ル	609.960	815.400	712.680
同上 五枚殘シテ切ル	514.380	748.860	631.620
三要素等量區	544.800	709.500	627.150
窒素多量區	665.100	816.900	714.000
磷酸同	385.200	851.400	618.300
加里同	520.680	637.100	578.890
人工交配區	565.440	1059.300	812.370
非人工交配區	492.840	945.000	718.920

以上ノ成績ニ依レバ摘心區ニアリテハ結果部ヨリ上方一枚ヲ殘シ切リタルモノハ三枚殘シテ切リタルモノ及ビ五枚殘シテ切リタルモノニ比シ收量多シ之ニヨリ見レバ結果部ヨリ上方ニアル蔓ハ葉數一枚以上成ルベク少數ヲ殘シテ切ルヲ最モ良好ナリトス

又肥料區ニアリテハ窒素多量區收量最モ多ク三要素區、加里區、及磷酸區之ニ次グ之レヲ累年平均成績ニ見ルニ窒素多量區收量最モ多ク三要素區、磷酸區、加里區之ニ次グ

尙人工交配區ニアリテハ非人工交配區ニ比シ收量多キノミナラズ摘心區及肥料試驗區ニ比シテ收量ニ於テ一頭地ヲ拔クヲ認ム、本試験ハ尙繼續施行セントス

第三 蘿蔔鬆入ニ關スル試驗 (繼續第四年)

本試験ハ本縣蘿蔔ノ鬆入多ク品質ヲ害スルコト少カラザルモ其ノ原因不明ナルヲ以テ其ノ原因及豫防法ヲ知ランガタメ次ノ各項ニ區別施行セリ其ノ成績下ノ如シ

イ、播種期ト鬆入トノ關係試驗 (繼續第二年)

試驗別	本年度鬆入歩合	大正八年度 同	大正七年度 同	累年平均 同
七月中旬	37.1	—	—	37.1
七月下旬	31.5	—	—	31.5
八月上旬	33.1	—	—	33.1
八月中旬	29.4	37.5	12.0	26.3
八月下旬	20.9	12.5	3.8	12.4
九月上旬	17.7	2.0	2.3	7.3

以上ノ成績ニ依レバ播種期ノ早キモノ程鬆入多キヲ知ル

ロ、種子ト鬆入トノ關係 (繼續第四年)

試驗別	本年度鬆入歩合	大正八年度 同	大正七年度 同	大正六年度 同	累年平均
新種子	24.2	30.0	22.0	—	25.3
前年同	25.9	41.1	17.9	40.0	30.8
大粒同	25.3	35.0	22.0	30.0	28.1
中粒同	22.1	30.0	28.0	20.0	25.1
小粒同	21.1	42.5	11.0	80.0	38.7
比重一・一以上同	16.5	35.0	18.0	40.0	27.4
比重一・一以下同	11.9	32.5	22.0	30.0	24.1

本年度ノ成績ニ依レバ種子ハ新シキモノ程鬆入歩合少ナキヲ知ル又種子ノ大小ハ小ナルモノ程鬆入歩合少ナキヲ見ルモ累年平均成績ヨリ見レバ然ラズ尙繼續施行ノ要アリ、比重ノ大小ハ小ナルモノ程鬆入少ナキヲ知ル

ハ、追肥回数ト鬆入トノ關係 (繼續第三年)

試 驗 別	本年度鬆入歩合	大正八年度鬆入歩合	大正七年度鬆入歩合	大正六年度鬆入歩合	累年平均成 績
二 回 分 施 區	41.2	32.5	35.0	40.0	37.7弱
三 回 全	38.5	42.5	22.0	42.0	36.3弱
四 回 全	30.2	45.0	26.0	40.0	37.5弱
五 回 全	29.8	25.0	6.0	30.0	22.7
六 回 全	36.0	27.5	16.0	20.0	24.9弱
七 回 全	27.3	35.0	35.0	20.0	29.5弱

以上ノ成績ヨリ見レバ追肥回数ハ多キ程鬆入少ナキヲ見ル

ニ、收穫期ト鬆入トノ關係 (繼續第五年)

試 驗 別	本年度鬆入歩合	大正八年度鬆入歩合	大正七年度鬆入歩合	大正六年度鬆入歩合	累年平均成 績
十 月 二 十 七 日	10.2	7.5	10.0	40.0	16.9強
十 一 月 一 日	12.5	17.5	11.0	10.0	12.9弱
十 一 月 五 日	21.4	35.0	—	—	23.2
十 一 月 十 日	12.6	22.5	22.0	—	19.0強
十 一 月 十 五 日	14.9	20.0	10.0	—	17.0弱
十 一 月 二 十 日	33.3	25.0	10.0	—	24.3弱
十 一 月 二 十 五 日	18.5	45.0	—	40.0	34.5
十 一 月 三 十 日	19.5	27.5	21.0	40.0	27.0

以上ノ成績ニ依レバ收穫期ノ早キ程鬆入歩合ノ少ナキヲ見ル

ホ、三要素ト鬆入トノ關係 (繼續第四年)

試 驗 別	本年度鬆入歩合	大正八年度鬆入歩合	大正七年度鬆入歩合	大正六年度鬆入歩合	累年平均成 績
無 窒 素 區	29.0	37.5	17.0	90.0	43.4弱
窒 素 二 貫 匁 區	43.4	37.5	33.0	90.0	53.5弱
同 四 貫 匁 區	40.0	52.5	11.0	50.0	38.4弱
同 六 貫 匁 區	37.0	37.5	32.0	40.0	36.8
無 磷 酸 區	17.4	40.0	34.0	70.0	40.3
磷 酸 二 貫 匁 區	19.4	7.5	23.0	50.0	26.2強
同 四 貫 匁 區	40.1	45.0	39.0	50.0	43.6
同 六 貫 匁 區	19.1	7.5	28.0	40.0	23.7強
無 加 里 區	29.7	47.5	50.0	30.0	39.1弱

加 里 二 貫 匁 區	30.2	50.0	37.0	40.0	39.3
同 四 貫 匁 區	28.8	47.5	36.0	70.0	45.6弱
同 六 貫 匁 區	21.7	35.0	17.0	30.0	26.0弱

以上ノ成績ニヨレバ三要素ノ多少ト鬆入トノ關係ハ區々ニシテ一定セズ尙繼續試験セントス

第 四 蘿 蔔 品 種 試 驗 (繼續第三年)

本試験ハ蘿蔔ノ優良ナル品種ヲ選擇セントスルモノニシテ本年度ノ成績次ノ如シ

試 驗 別	本 年 度 反 當 收 量	大 正 八 年 度 反 當 收 量	累 年 平 均 收 量
御 器 所	1504.440	427.500	965.970
早 生 方 領	1112.400	564.000	838.200
宮 重	1793.025	1303.000	1550.512
津 島 屋	1045.500	681.000	863.250
赤 筋	1023.100	663.000	842.000
白 上	1327.350	573.000	950.325
鞍 馬 口	1450.725	—	1450.725
下 條 院	1742.000	913.375	1328.888
聖 護 院	1564.275	—	1564.275
島 大 根	1798.350	—	1798.350
美 濃 早 生	1947.325	—	1947.325
春 福	1222.950	599.250	911.100
練 馬 (尻 丸)	1400.025	—	1400.025

以上ノ成績ニ依レバ本年度ノ收量ニ於テ美濃早生, 島大根, 宮重, 下條最モ多ク聖護院, 御器所之ニ次グ又累年平均收量ニ於テモ宮重, 下條並ニ御器所ハ良好ナル成績ヲ示セリ

第 五 甘 藷 品 種 試 驗 (繼續第三年)

本試験ハ甘藷ノ優良ナル品種中ヨリ特ニ本縣ニ適スル品種ヲ選擇スルニアリテ供試品種並ニ收量下ノ如シ

品 種 名	本 年 度 反 當 收 量	大 正 八 年 度 反 當 收 量	大 正 七 年 度 反 當 收 量	累 年 平 均 收 量
紅 赤 時	344.239	493.650	591.863	476.584
金 赤 時	511.009	563.550	593.040	555.866
川 越 赤 時	522.169	501.000	662.100	561.756
千 葉 赤 時	537.754	351.000	—	469.377
石 川 縣 金 時	557.528	430.200	431.100	472.943
神 奈 川 縣 八 幡	632.926	—	—	632.926
八 幡 州	636.775	561.000	657.600	618.458
三 栗 諸	473.324	388.800	422.850	428.325
屋 久 島	656.521	504.000	561.600	574.040
源 氏 諸	666.180	550.500	531.600	582.760
紅 相 州 白 性	537.360	459.300	—	498.330
相 州 白 性	571.799	752.700	453.300	592.599
矮 性	844.009	—	—	844.009
蔓 無 性	917.406	836.400	—	876.803
蔓 無 性	705.107	933.000	751.950	796.685

以上ノ成績ニ依レバ本年度收量ニ於テ矮性、相州白、蔓無シ、屋久島等收量多シ然レドモ收量ノ多キモノハ概シテ品質劣等ニシテ食用トハシテハ尊重セラレズ、品質收量ノ二點ヨリ考察シテ優良種ト認ム可キ紅赤、金時、八幡、栗諸等ナリトス

第 六 甘 藷 挿 苗 期 試 驗 (新 設)

本試驗ハ甘藷挿苗期ノ早晚ハ收量ニ如何ナル關係ヲ有スルヤヲ試驗セントスルモノニシテ試驗別並ニ成績ヲ擧グレバ次ノ如シ

試 驗 別	反 當 收 量	試 驗 別	反 當 收 量
五 月 十 日	249.450	六 月 十 日	297.550
五 月 二 十 日	303.900	六 月 二 十 日	210.500
五 月 三 十 日	344.700	六 月 三 十 日	217.000

以上ノ成績ニヨレバ五月三十日挿苗ノモノ收量最モ多ク五月二十日六月十日、五月十日ノモノ之ニ次グ本試驗ハ尙繼續施行セントス

第 七 結 球 白 菜 品 種 試 驗 (繼 續 第 三 年)

本試驗ハ從來本場ニ於テ試驗ノ結果優良ト認メタル品種及ビ新品種ニツキ比較試驗ヲ行ヒ本縣ニ最モ適スル良種ヲ選擇セントスルモノニシテ供試品種及ビ收量下ノ如シ

試 驗 別	本 年 度 反 當 收 量	大 正 八 年 度 反 當 收 量	大 正 七 年 度 反 當 收 量	累 年 平 均 收 量
金 州	1654.900	2476.400	1096.150	1741.83
開 城	818.167	1274.667	—	1046.417
直 隸	1586.000	2053.467	1282.100	1640.522
茨 城	1439.233	1997.000	—	1718.116
長 崎	863.133	1066.667	389.700	773.166
芝 罘	2150.884	1996.667	1068.650	1914.680
包 頭 連	1288.500	1946.333	666.650	1300.494

本年度ノ成績ニヨレバ芝罘、金州、直隸、茨城收量最モ多シ之レヲ累年成績ニヨリテ見ルニ金州、芝罘、包頭連等良好ナル成績ヲ示セリ

第 八 甘 藷 純 系 陶 汰 試 驗 (繼 續 第 二 年)

從來栽培セル品種中ヨリ優良ナル系統ヲ選抜センガ爲メ行フモノニシテ紅赤、金時ノ二品種ヲ供試用トシ紅赤入系統金時十七系統ノ特性調査ヲナセリ

第 九 甘 藷 貯 藏 法 試 驗 (繼 續 第 二 年)

近年本縣ニ於ケル甘藷ノ栽培面積ハ大ニ増加セリト雖モ收穫當時ニ於テハ價格低廉ニシテ冬季ノ候頗ル高價ナルハ本縣ノ氣候寒冷ニシテ貯藏困難ニ基因ス故ニ完全ナル貯藏法ノ發見ハ甘藷栽培ノ發達上頗ル重要ナル事項ナルヲ以テ茲ニ貯藏ニ關スル研究調査ヲ施行シタル所以ナリ而シテ本年度ニ於テハ中魚沼郡内數ヶ所ノ貯藏窖ヲ用ヒ次ノ試驗ヲ施行セリ

一、處理法對貯藏力試驗

甘藷處理法ノ如何ハ貯藏力ニ如何ナル關係アルヤヲ試驗セントスルモノニシテ藷ニ蔓一尺ヲ附シタルモノ及ビ藷ト蔓トヲ切離シタルモノ腐敗歩合少ク蔓二尺並ニ蔓三尺ヲ附シタルモノ著シク腐敗歩合大ナリ

二、收穫期對貯藏力試驗

甘藷ノ收穫期ト貯藏力トハ如何ナル關係アルヤヲ試驗シタルモノニシテ十月十日、二十日、三十日並ニ十一月十日ニ收穫貯藏シタルモノ腐敗歩合少ナク十一月二十日收穫貯藏セルモノ腐敗歩合大ナリ之レ後者ハ降霜ノ被害ニ依ルモノナラン

三、大小形狀對貯藏力試驗

諸ノ大小形狀ト貯藏力トノ關係ヲ試驗シタルモノニシテ腐敗歩合ノ最小ナルハ丸形ニシテ小形、大形、中形之ニ次ギ長形ハ腐敗最モ大ナリ

四、詰物材料對貯藏力試驗

甘藷ノ貯藏ニ當リ八種ノ異リタル詰物ヲ用ヒ貯藏力ニ如何ナル關係ヲ有スルヤヲ試驗セントスルモノニシテ腐敗歩合ノ最モ少ナキハ砂、粉殻ニシテ切藁、鋤屑、蕎麥殻、稗殻、石灰、無詰物及藁灰之ニ次グ

□ 果樹委託試驗ノ部

第一 苹果模範果樹園

中蒲原郡小合村大字大鹿木村泉氏ニ委託シテ紅魁、祝、倭錦三品種ニツキ收量調査ヲ施行シタリ

本年度一本平均收量(十年生)次ノ如シ

紅	魁	3,850
祝		5,370
倭	錦	9,250

以上ノ成績ニ依レバ倭錦ハ品質良好ナラザルモ收量最モ多ク祝、紅魁之ニ次グ

第二 和梨晚三吉收支調査

中蒲原郡早通村清水新一郎氏ニ委託シテ晚三吉種ニツキ收支調査ヲ施行シタリ但シ反別二畝二十七歩トス

總	收	入	93,370
總	支	出	88,098
差	引	純	益
			57,282

以上ノ調査ニヨレバ純益五拾七圓貳拾八錢貳厘ニシテ反當百九拾七圓五拾貳錢トナリテ利益ノ多大ナルコトヲ知ルベシ

第三 歐洲葡萄特性調査

北蒲原郡築地村佐藤佐忠次氏ニ委託シテ「カワラフレッツシ」「ブラックハンバーク」「ゴルデンクキン」「ゴルデンチャンピオン」「フオスターシードリング」「龍眼」「シヤスラーローズスキートオータ」ノ八品種ニツキ特性調査ヲ施行シタリ本試験ハ尙繼續施行セントス

上計式自當以マコニ...

三 廣

マコニ...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

農藝化學部

□ 木 框 試 驗 ノ 部

第 一 有 機 質 肥 料 ノ 地 力 ニ 及 ボ ス
影 響 試 驗 (新 設)

本 試 驗 ハ 各 種 有 機 質 肥 料 ノ 地 力 ニ 及 ボ ス 影 響 ヲ 試 驗 セ ン ト ス ル モ ノ
ニ シ テ 其 成 績 ハ 次 ノ 如 シ

試 驗 區 別	反 當 施 用 量	葉	枇	穀	實
1 { 野 草 大 豆 骨 粉 木 灰	200.000				
	15.000				
	4.000	232.4	1.8		220.4
	11.000				
2 { 堆 肥 大 豆 骨 粉 木 灰	200.000				
	12.000				
	3.000	215.0	2.2		120.5
	10.000				
3 { 生 糞 大 豆 骨 粉 木 灰	160.000				
	15.000				
	4.700	181.4	0		103.2
	0.800				
4 { 紫 雲 英 大 豆 骨 粉 木 灰	209.000				
	12.000				
	4.500	190.9	1.4		108.9
	13.000				
5 { 堆 肥 大 豆 骨 粉 木 灰	100.000	197.9	0.9		103.7
	30.000				
	4.000	205.0	1.0		158.8
	10.000				
7 { 硫 安 過 磷 酸 硫 酸 加 里	10.000				
	10.000	204.1	0.8		160.0
	4.000				

備 考 一・ 窒 素 ハ 反 當 二 貫 目 ト 定 ヲ 其 二 貫 目 ノ 内 一 貫 目 ヲ 野 草, 紫 雲 英, 堆 肥 等 ノ 自 給
肥 料 ニ テ 施 シ 他 ノ 一 貫 目 ノ 窒 素 ハ 大 豆 粕 等 ヲ 以 テ 施 セ リ
二・ 磷 酸 及 加 里 ハ 反 當 二 貫 目 ト 定 ヲ 野 草 等 ノ 如 キ 自 給 肥 料 ニ 於 テ 不 足 分 ノ 磷 酸 及
加 里 ハ 骨 粉 又 ハ 木 灰 ニ テ 施 セ リ

即チ自給肥料中最モ收量大ナルハ野草ヲ施セルモノニシテ最モ收量劣レルハ生糞ヲ施セルモノナリ其他ハ收穫量ニ於テ之等兩者ノ中間ニアルヲ見ル

第二 天然供給量試験 (繼續第八年)

本試験ハ水稻生育中土壤及灌溉水ヨリ天然ニ供給セラル、三要素量ヲ知ラントスルニアリ其成績次ノ如シ

試験區別	反當施用量	葉	稅	穀	實	平均	平均
						葉	穀實
1. 完全區	硫安	5				225.0	177.3
	過磷酸	5	231.2	1.3	226.2		
	硫酸加里	5					
2. 無窒素	硫安	5	169.5	1.0	75.3	114.6	86.0
	過磷酸	5					
	硫酸加里	5					
3. 無磷酸	硫安	5	224.3	1.3	177.8	198.0	140.4
	過磷酸	5					
	硫酸加里	5					
4. 無加里	硫安	5	195.3	1.3	122.5	186.5	128.8
	過磷酸	5					
	硫酸加里	5					
5. 無肥料	硫安	—	170.6	1.5	91.6	104.4	87.4
	過磷酸	—					
	硫酸加里	—					

即チ之ヲ累年成績ニ見ルニ水稻栽培上完全區、無磷酸區、無加里區ハ葉ニ比シ穀實ノ收量小ニシテ葉ニ比シ穀實ノ收量大ナルハ無窒素區及無肥料區ナリ由テ多收ヲ得ントスルニハ窒素ニ比シ磷酸及加里ヲ多ク施用セザルベカラザルヲ知ル

□ 圓筒試験ノ部

第一 石灰窒素施用法試験 (新設)

本試験ハ石灰窒素ヲ施用スルニ當リ如何ナル施用法ニヨルベキヤヲ

知ラントスルモノニシテ其成績ハ次ノ如シ

試験區別	反當施用量	葉	稅	穀	實
1. 硫安	—				
	2.0	17.3	1.0		16.2
2. 過磷酸	2.0				
	2.0	19.3	1.4		19.0
3. 硫酸加里	2.0				
	2.0				
4. 石灰窒素一週前施用	2.5				
	2.5				
5. 過磷酸	2.0	12.0	1.0		13.0
	2.0				
6. 過磷酸	2.0				
	2.0	18.5	0.5		20.0
7. 硫酸加里	2.0				
	2.0				
8. 石灰窒素半量追肥	2.5				
	2.5	16.0	2.0		20.2
9. 過磷酸	2.0				
	2.0	20.0	1.0		22.0
10. 石灰窒素全量追肥	2.5				
	2.5				
11. 過磷酸	2.0				
	2.0	14.6	0.4		14.2
12. 石灰窒素植付當時施用	2.5				
	2.5				
13. 二區ニ堆肥百五十	—	14.0	0		16.0
	—				
14. 三區ニ堆肥百五十	—	12.0	1.0		15.0
	—				
15. 四區ニ堆肥百五十	—	13.7	0.5		15.6
	—				
16. 五區ニ堆肥百五十	—	11.8	0		12.2
	—				
17. 六區ニ堆肥百五十	—	11.5	0.5		15.0
	—				
18. 七區ニ堆肥百五十	—	13.0	2.0		15.0
	—				

即チ本年一ヶ年ノ成績ニテハ「チヤンヂアミト」ノ全量ヲ追肥トシテ施用セルモノノ收量最モ大ナレドモ尙繼續試験ヲ要ス

第二 鹽害豫防法試験 (繼續第二年)

本試験ハ鹽化曹達ノ水稻ニ及ボス有害程度ヲ查定スルト同時ニ之ガ除害法ヲ知ラントスルモノニシテ其成績ハ次ノ如シ

試験區別	薬	税	穀實	平均	
				薬	穀實
1 標準區	13.5	0.5	11.7	20.4	11.1
2 鹽化曹達0.01%加用區	11.5	1.0	9.0	21.4	10.8
3 鹽化曹達0.05%加用區	12.5	0.5	13.0	26.0	11.8
4 鹽化曹達0.1%加用區	16.2	0.6	14.2	8.1	7.1
5 鹽化曹達0.2%加用區	18.7	0.5	18.5	9.4	9.3
6 鹽化曹達0.01%ヲ鹽化石灰ニ變ズル様石灰ヲ加用セルモノ	13.2	0	13.2	21.0	12.2
7 鹽化曹達0.05%ヲ鹽化石灰ニ變ズル様石灰ヲ加用セルモノ	12.0	0.5	11.2	13.6	20.9
8 鹽化曹達0.1%ヲ鹽化石灰ニ變ズル様石灰ヲ加用セルモノ	13.1	0.5	13.7	11.0	11.3
9 鹽化曹達0.2%ヲ鹽化石灰ニ變ズル様石灰ヲ加用セルモノ	15.5	0.5	16.0	10.3	10.8

備考 肥料ハ各區トモ窒素・磷酸及加里ヲ反當三貫ノ割合ニ硫酸・過磷酸及硫酸加里ヲ以テ施セリ本年度ノ成績ニ於テ著シク前年度ト異ナルハ鹽化曹達ノ下層土ニ滲透シタルタメ表土ニ於ケル其濃度稀薄ニナレルタメナラン

第三 米糠施用法試験 (繼續第四年)

本試験ハ米糠ヲ施用スルニ當リ如何ナル施用法ニヨルベキヤヲ知ラントスルモノニシテ其成績ハ次ノ如シ

試験區別	薬	税	穀實	平均	
				薬	穀實
米糠其儘施用	11.8	0.5	10.2	11.8	9.9
施用前一週間腐敗	11.5	1.0	8.6	11.5	9.3
施用前二週間腐敗	11.0	1.0	8.0	11.5	7.0
施用前三週間腐敗	11.0	0.5	7.0	11.5	7.0
過磷酸石灰施用	15.9	0.6	7.1	11.6	8.5
骨粉施用	15.2	1.0	11.0	13.8	12.0

即チ米糠ハ其儘施用セルモノ最モ成績優良ニシテ長時日腐敗セシメタルモノハ成績不長ナリ

第四 磷酸質肥料試験 (繼續第五年)

本試験ハ主要ナル磷酸肥料ニツキ其肥効ヲ知ラントスルモノニシテ試験ヲ甲乙ニ大別シ窒素ヲ硫酸ニテ供給セシモノト石灰窒素ニテ供給セルモノトセリ

甲硫酸ヲ基礎トセルモノ					乙石灰窒素ヲ基礎トセルモノ						
試験區別	薬	税	穀實	平均	試験區別	薬	税	穀實	平均		
過磷酸	11.0	0.5	11.4	10.3	9.0	過磷酸	12.2	0.5	10.0	11.9	10.9
骨粉	10.0	0.5	10.0	10.5	9.9	骨粉	11.0	0.5	9.0	10.0	10.0
粗骨粉	—	—	—	9.6	8.6	粗骨粉	—	—	—	—	9.5
米糠	9.1	0.5	8.7	8.9	8.7	米糠	9.0	0.5	8.5	9.5	9.5
磷酸アルミナ	13.5	0	14.5	—	—	磷酸アルミナ	12.0	0.6	15.7	—	—
アンモース	15.2	0.5	16.3	—	—	アンモース	14.1	0	16.5	—	—

即チ硫酸ヲ用ヒタル場合ニハ其成績ハ骨粉、過磷酸、粗骨粉、米糠ノ順次ニシテ石灰窒素ヲ用ヒタル場合ニハ過磷酸、骨粉、粗骨粉、米糠ト順次ニ其成績劣レリ磷酸アルミナ及アンモースハ本年度ヨリノ試験ニシテ其成績明ラカナラザレドモ相當ノ肥効ヲ呈スルモノ、如シ

□ 施肥標準調査ノ部

第一 施肥標準調査

本年度ニ於テ施肥標準調査ニ實地踏査ヲ施行セル町村及其調査成績ヲ發表セル町村ハ次ノ如シ

施肥標準調査實地踏査町村				調査成績發表町村			
郡名	町村名	郡名	町村名	郡名	町村名	郡名	町村名
佐渡郡	新穂村	岩船郡	岩船町	佐渡郡	西神納村	岩船郡	西神納村
佐渡郡	如野村	岩船郡	西神納村	南魚沼郡	黒川村	北蒲原郡	黒川村
南魚沼郡	大崎村	北蒲原郡	黒川村				

南魚沼郡	東柳村	北蒲原郡	佐田村
刈羽郡	高柳村	中頸城郡	黒名立村
中頸城郡	新井村	西頸城郡	名中條村
北魚沼郡	新城村	中魚沼郡	中大卷村
		南魚沼郡	大八ヶ村
計	七ヶ村	計	

第二 施肥標準量査定試験

本試験ハ施肥標準調査實地踏査ヲ施行セル町村ノ土壤ニ對シ施肥ノ標準ヲ査定セントスルモノニシテ其町村ハ次ノ如シ

試験終了セルモノ		試験ヲ繼續スベキモノ	
郡名	町村名	郡名	町村名
中頸城郡	黒川村	刈羽郡	高柳村
西頸城郡	名立村	中頸城郡	新井村
中魚沼郡	中條村	佐渡郡	新穂村
南魚沼郡	大卷村	北魚沼郡	城川村
北蒲原郡	黒川村		
岩船郡	岩船町		
岩船郡	西神納村		
計	七ヶ村	計	四ヶ村

第三 施肥標準調査設計ニ基ク

委託試験田成績

本年度ノ委託試験田成績ハ在來法ニ比シ肥料代ニ於テ一圓七十五錢ヲ増加シ玄米三斗六升ノ增收ヲ得タリ即チ玄米一割四分餘ノ增收歩合ヲ示セリ

郡町村名	反當收量			反當肥料代			比較田ニ對スル増率
	試験田	比較田	増減	試験田	比較田	増減	
西頸城郡大和川村	2.83	2.56	0.27	11.69	9.98	1.81	10.6
中頸城郡水上村	2.65	2.31	0.34	10.20	8.65	1.65	15.1

中頸城郡下黒川村	2.70	2.42	0.28	10.05	8.25	1.80	11.5
南魚沼郡六日町	3.15	2.56	0.59	11.25	9.45	1.80	23.0
岩船郡神納村	2.76	2.47	0.29	10.65	8.77	1.88	11.8
平均	2.82	2.46	0.36	10.77	9.09	1.75	14.6

但シ北蒲原郡紫雲寺村ハ成績未着ニツキ平均ヨリ省ケリ

□ 依頼分析ノ部

第一 分析件數及成分數

場用分析ハ土壤四十二件肥料二十二件其他二十六件計百三十二件其成分數八百三十二成分ナリ

依頼分析ニ於テハ土壤十七件肥料七十六件其他四件計九十七件其成分數三百十四成分ナリ

所屬別	種類別	件數	成分數	窒素	磷酸	加里	其他	理學的 分析
依頼	土壤	17	59	13	15	16	15	—
	肥料	76	251	103	79	36	33	—
	其他	4	4	—	—	—	4	—
	小計	97	314	116	94	52	52	—
場用	土壤	42	420	42	42	42	294	—
	肥料	42	294	—	—	—	—	294
	其他	22	66	22	22	22	—	—
	小計	132	832	64	64	64	346	294
計		229	1146	180	158	116	398	294

□病害ニ關スル試験ノ部

第一 稻葉切病ニ關スル試験

其 一 肥料用量トノ關係試驗 (繼續第十年)

本試験ハ肥料成分ノ施用量ト發病トハ如何ナル關係アルヤヲ知ラン
ト欲シ前年度ニ繼續シテ施行ス即チ標準(窒素一貫八百二十六匁, 磷酸
一貫三百九十三匁, 加里一貫四百三十九匁)窒素二倍, 同三倍, 磷酸二倍
同三倍, 加里二倍, 同三倍, 石灰二倍, 同三倍, 同四倍及無肥料區ノ十一
區ノ外ニ本年度ハ新ニ無磷酸, 無加里, 無石灰, 無窒素, 石灰(三十貫)單
用ノ五區ヲ加ヘ都合十六區ニ付試驗ス成績次ノ如シ

試 驗 別	七月廿日 (土用入) 調 査		九月廿七日 (收穫時) 調 査		支 收 米 量	葉 重 量
	草 丈	分 蘗 數	草 丈	種 數		
標 準	2.16	14.9	3.29	14.8	1.970	84.950
窒 素 二 倍 用	2.41	18.5	3.28	14.8	2.378	86.720
磷 酸 二 倍 用	2.11	17.3	3.44	13.0	2.460	94.500
加 里 二 倍 用	2.05	15.4	3.16	13.2	2.430	81.000
石 灰 二 倍 用	2.03	17.2	3.58	14.0	2.875	62.755
窒 素 三 倍 用	2.26	25.5	3.49	15.0	2.413	112.500
磷 酸 三 倍 用	2.11	16.5	3.34	17.0	2.400	93.750
加 里 三 倍 用	2.41	13.9	3.43	14.3	2.475	85.750
石 灰 三 倍 用	2.10	17.0	3.59	13.7	2.926	94.000
石 灰 四 倍 用	2.95	20.2	3.58	14.0	3.420	101.750
無 肥 料	1.29	13.0	3.13	11.2	1.770	85.000
無 窒 素	1.86	12.8	3.37	13.2	2.160	82.000
無 磷 酸	1.92	15.4	3.39	14.0	2.400	83.000
無 加 里	1.88	14.3	3.29	13.4	2.772	63.500
無 石 灰	1.92	13.2	3.41	12.2	1.730	81.850
石 灰 單 用 區	1.51	18.0	3.34	9.5	1.380	70.000

即チ以上ノ得タル成績ヲ前三ケ年平均ト比較スルニ左ノ如シ

比 較 事 項	本 年 度	前 三 ケ 年 平 均	備 考
收 量 最 多 區	石灰四倍區	石灰四倍區	一 致 ス

收量最少區	石灰單用區	無肥料區	本年度新ニ加ヘル區ヲ除カバ 本年度平均無肥料區ニシテ一致ス
收穫當時草丈最長區	石灰三倍區	石灰二倍區	石灰二倍區ハ本年度第二位ニ有
同上最短區	無肥料區	無肥料區	一致ス
同上穗數最多區	磷酸三倍區	加里二倍區	一致セズ
同上最少區	石灰單用區	磷酸二倍區	一致セズ
葉重量最多區	窒素三倍區	窒素三倍區	一致ス
同上最少區	石灰二倍區	無肥料區	一致セズ

次ニ發病ニ關スル調査セル成績ヲ擧グレバ次ノ如シ

無孔並ニ有孔病葉ノ別	本年度發病歩合	前四ヶ年發病歩合
無孔病葉最モ多キ區	加里二倍區 10.7%	加里二倍區 12.4%
同上最モ少キ區	無加里區 3.8%	窒素三倍區 7.4%
有孔病葉最モ多キ區	窒素三倍區 11.9%	加里二倍區 15.9%
有孔病葉最モ少キ區	石灰單用區 7%	磷酸三倍區 6.3%

本年度ハ發病極メテ僅少ナリキ

其二 病原菌ニ關スル研究

前年度同様ニ研究ヲ續ケタルモ未ダ其ノ結果ヲ發表スルヲ得ズ

第二 稻熱病及大粒白絹病ニ關スル試験

其一 肥料用量トノ關係試驗 (新設)

本試驗ハ近次漸次其ノ被害ヲ遏ウシ來タル稻大粒白絹病ト稻熱病ト施肥量トハ如何ナル關係アルモノナルヤヲ知ラントスルモノニシテ次ノ設計ニヨリ施行ス

標準區(窒素一貫八百二十六匁, 磷酸一貫三百九十三匁, 加里一貫四百三十九匁) 無肥料區, 無窒素區, 無磷酸區, 無加里區, 窒素二倍區, 磷酸二倍區, 加里二倍區, 石灰區(石灰反當三十貫加用ス) 石灰單用區(普通肥料ヲ用ヒズ石灰ノミ三十貫單用ス)

生育ノ狀況及發病調査ノ成績次ノ如シ

試 驗 別	七月廿日 (土用入)調査		九月十八日 (收穫時)調査		稻熱病發病歩合 %	大粒白絹病發病歩合 %
	草丈	分蘖數	草丈	穗數		
標準區	2.71		3.89	14.4	7.4	10.0
無肥料區	2.87		3.88	14.5	4.1	5.7
無窒素區	2.66		3.86	11.1	16.6	1.4
無磷酸區	2.34		3.95	12.0	16.6	4.3
無加里區	2.33		4.27	14.2	11.1	11.4
窒素二倍區	3.79		4.40	16.9	29.6	24.3
磷酸二倍區	2.82		3.97	11.4	9.3	20.0
加里二倍區	2.81		3.99	10.6	1.9	10.0
石灰單用區	2.61		3.92	10.5	4.1	9.3
石灰加用(普通肥)	3.01		4.19	11.6	-	3.5

以上ノ成績ヲ通覽スルニ生育狀況ハ施肥區ヨリモ却ツテ無肥料ニ優レル如キ珍現象ヲ呈シタリコレ下水ノ流入シタルガ爲ナリ而シテ本年得タル發病ノ狀況ハ稻熱病ニアリテハ窒素二倍區ニ最モ多ク石灰單用區ニアリテハ一本ノ發病モナク且ハ磷酸及ビ加里ヲ増セバ發病數ヲ減ズル傾向アリテ明ニ窒素ノ過用ガ本病ノ誘因トナルコトヲ示セリ

大粒白絹病ハ一定ノ傾向ヲ示サズト雖モ本病モ稻熱病ト等シク窒素質肥料多キハ本病ノ發生ニ至大ノ關係アルガ如シ

其二 病原菌ニ關スル研究

十二月十一日穗首稻熱ノ發病部ヨリ病原菌ノ分離ヲ行ヒ鏡檢セルニ明ニ稻熱病菌ナルニヨリ本菌ノ純粹培養ヲ行ヒ一方獎勵原種ヲ採リ播種シ發芽伸長セシメ接種試驗ヲ試ミシトセルモ時恰モ向寒ノ節ナルヲ以ツテ稻ノ生育ノ状態不良ニシテ成績ヲ見ルヲ得ザリキ

第三 大豆病害試驗 (繼續第六年)

其一 窒素質肥料施用試驗 (新設)

本試驗ハ中魚沼郡下船渡村正面ケ原及水澤村細尾ケ原ニ於ケル大豆病害俗稱月夜病ハ窒素質肥料ノ缺乏セルヨリ來ル事多キヲ知り得タルヲ以ツテ如何ナル種類ノ窒素質肥料ヲ施サバ可ナルヤヲ知ラントワグネル氏圓筒二箇ヲ以ツテ一區トシ次ノ設計ニヨリ試驗セリ

標準區	硫酸アモニヤ、過磷酸石灰、木灰ヲ以テ窒素0.122・磷酸1.062、加里0.880貫ヲ施肥ス(反當) 硫酸アモニヤヲ施ス代リニ堆肥ヲ用フ磷酸加里ノ不足量ハ木灰及過磷酸石灰ヲ以テ補フ
堆肥區	
石灰窒素區	
智利硝石區	
無肥料區	

以上ノ設計ニヨリ六月十三日播種シタルニ内標準區ハ發芽後間モナク發病枯死シ無肥料ハ全部枯死セリ

而シテ草丈收量共ニ智利硝石區最モ良好ニシテ次ニ堆肥區ニシテ標無肥料(本場工場)丈最モ高キモ收量ハ之ニ反シ最モ劣等ナリ尙繼續試驗ノ上結論ヲ下スベシ

其二 堆肥施用量試驗

本試驗ハ正面ケ原地方ノ土壤改良ニハ堆肥ヲ施用スルコトガ重大ナル關係アルハ己ニ明ナル處ニシテ而シテ之ガ病蟲害並ニ大豆生育ト如何ナル關係アルヤヲ知ルモ亦重大ナル事ナルヲ以テ前試驗同様ツグネル氏圓筒ヲ用ヒ次ノ設計ニヨリ試驗ス

1. 無堆肥區	硫酸アモニヤ、過磷酸石灰及木灰ニテ窒素0.840・磷酸1.062、加里888貫施用ス
2. 堆肥五十貫區	
3. 標準區	
4. 堆肥百貫區	
5. 標準區	
6. 堆肥二百貫區	
7. 標準區	
8. 堆肥三百貫區	
9. 標準區	
10. 無肥料區	

本年度割合ニ發病少カリシモ第一區及第九區ハ全部發芽後程ナク枯死シ第十區モ亦三本中二本枯死セリ而シテ生育ノ最モ優レルハ第八區ノ堆肥三百貫施用區ニシテ收量モ亦全區中最モ多ク第二區ノ堆肥二百貫施用區之ニ亞ギ第九區ノ標準區最モ劣レリ之ニヨツテ見ル時ハ明ニ堆肥ノ施用ガ本病ニ重大ナルコトヲ示セリ尙繼續試驗ノ上決定スベ

シ而シテ本年ノ發病ハ全部立枯病ナリ

第四 白菜腐敗病試驗 (繼續第十一年)

前年度ニ於テハ土壤消毒並ニ黃筋蚤虫トノ關係ヲ知り得タルヲ以ツテ本年度ハ更ニ病原菌ノ性質並ニ之ガ隨伴菌ニ關スル研究ヲ行ヒ之レガ關係ヲ明カニセントスルニアリ

其一 追肥ノ種類試驗 (繼續第二年)

本試驗ハ人糞尿ヲ追肥トシテ施用シタル場合ニ人糞尿中ニ含マル、腐敗性微生物ガ本病ニ隨伴スル疑アルハ前年度ノ試驗ニ於テ益々陽性ノ事實ナルヲ以テ之トノ關係ガ如何ナル程度迄白菜ニ影響スルヤヲ知ラントスルモノニシテ次ノ試驗設計ニヨリ施行ス

無追肥區	甲乙ノ二區トシ甲區ノ石灰硫黃合劑ホーメー比重一度液ヲ以テ消毒シ乙區ハ消毒セズ
人造肥料追肥區	
人糞尿追肥區	

本年度雞害ノ爲メ人糞尿追肥區ヲ除外ノ二區ハ調査スルヲ得ズ只人糞尿追肥區ニアリテハ石灰硫黃合劑ヲ以ツテ消毒セルモノハ其ノ然ラザルモノニ比シ發病遙ニ少クシテ其ノ生育ハ初メノ内ハ劣レル如キモ收穫期ニハ却ツテ大球ナルモノヲ得タリ

其二 病原菌ニ關スル研究

十一月二十六日白菜ノ腐敗部ヨリ分離シ寒天扁平培養基上ニコロニーヲ形成セシメ六個ノ異リタルコロニーヲ得タルヲ以ツテコレガ純粹培養ヲ行ヒ白菜及大根ニヨリテ作りタル個體培養基上ニ夫々接種試驗ヲ試ミタルニ六ツノコロニーノ細菌中明ニ其ノ中ノ一個ハ培養器ヲ腐敗軟化セシメ其ノ病原タルコトヲ知り得タルモ遂ニ本菌分類上果シテ何レノ部ニ屬スルモノナルヲ研究スルヲ得ズ尙繼續シテ研究セントス

害蟲ニ關スル試驗ノ部

第一 萃樹綿虫驅除試驗

本試驗ハ都合上中止セリ

第二 梨姫心喰蟲防除試験

本試験ノ目的トスルトコロハ梨姫心喰蟲ハ果實ニ袋掛後ニ喰入ルコト多キヲ以ツテ従ツテ従來施行シ來タレル藥劑撒布ノ方法ニテハ到底満足スベキ効果ヲ得ラレザルヲ以ツテ本年度ヨリハ新ニ袋掛後ニ藥劑撒布ニツキ試験研究セントス次ノ試験區別ニヨル

- 1 無袋掛無撒布區
- 2 {石灰ホールド一液亞砒酸曹達液加用區(四斗式)四斗ニ對一合混用ニ區ニ分チ一方ニハ普通ノ紙袋ヲ用ヒ他ノ一方ニハ袋ニ荏油ヲ塗布ス
- 3 {石灰硫黃合劑亞砒酸曹達液加用(ホーメー○一度液四斗ニ對一合甲乙二區ニ分ツコト前區ニ同様
- 4 四度袋掛區

收穫期ニ調査セル成績次ノ如シ一區二本宛トス

試験別	藥害	全果數	被害數	同歩	上合
1 無袋掛無撒布區		10	7	70%	
2 {石灰ホールド一液亞砒酸曹達液加用區(甲)	第三回目ニ極ク僅少ニ藥害ヲ認ムルモ大シタルコトナシ	10			
3 同 上(乙)	同 上	91			
4 {石灰硫黃合劑亞砒酸曹達液加用區(甲)	第二回目ノ撒布ニヨリ葉ハ黒變枯死落葉ス	30			
5 同 上(乙)	同 上	30			
6 四度袋掛區					

本年度ハ結果僅少ナル爲充分ナル試験ヲナスヲ得ズト雖モ以上ノ成績ヨリ見ル時ハ明ニ袋掛後ノ撒布ノ有効ナルヲ示セリ無袋掛區ハ軍配蟲ノ爲全部落葉シ果ノ發育不良ニシテ調査スルヲ得ズ而シテ石灰硫黃合劑ニ亞砒酸曹達ヲ混ズルハ藥害ノ爲ニ應用ナシ難シ

其二 桃心折虫トノ關係

次ニ桃心折虫トノ被害ノ關係ヲ調査セルニ桃ニ初メテ心折ヲ認メタルハ七月廿七日ニシテ梨ニ初メテ被害果ヲ發見シタルハ八月廿一日ナリキコノ時期ハ桃ニアリテハ最早心折ヲ認ムルヲ得ザリキ而シテ梨ニ最モ劇シク發生被害セラルハ八月下旬乃至九月上旬頃ナリ

□藥劑ニ關スル試験ノ部

第一 亞砒酸曹達使用試験 (繼續第三年)

本試験ハ毒劑トシテ亞砒酸曹達ヲ使用スル場合ニ如何ナル割合ニ配合シ如何ナル方法ニヨリ使用スレバ無害安全ナルヤヲ知ラントスルニアリ即チ

1. 三斗式石灰ホールド一液四斗ニ對シ亞砒酸曹達液五勺混用
2. 同 上七勺混用
3. 同 上一合混用
4. 四斗式ホールド一液四斗ニ對シ亞砒酸曹達液五勺混用
5. 同 上七勺混用
6. 同 上一合混用
7. 石灰硫黃合劑ホーメー比重0.1度液ニ對シ亞砒酸曹達液五勺混用
8. 同 上七勺混用
9. 同 上一合混用
10. 標準區

洋梨ヲ使用シ第一回目ノ撒布ヲ行ヒルノミニテ試験ノ都合上中止セリ

第二 ナフタリンノ麥發芽及生育ニ及ボス影響試験

本試験ハナフタリンヲ土壤中ニ施用シ土壤中ノ有害微生物並ニ害虫ヲ驅除スル目的ヲ以ツテ施ス場合ニ其ノ發芽並ニ生育ニ如何ナル程度ニ影響ヲ及ボスモノナルヤヲ知ランガ爲ニシテ一坪二十匁施用、一坪十五匁施用、一坪十匁施用、一坪五匁施用及標準無施用ノ五區トシ調査セルニ次ノ如シ

試験別	播下數	發芽			生育狀況		
		發芽數	同歩	上合	十月十五日調査	十月二十五日	十二月五日
一坪二十匁	80	75		93	2.98	6.08	12.20

一坪十五匁	25	23	92	3.40	6.98	12.82
一坪十匁	60	58	84	3.26	7.08	12.90
一坪五匁	25	26	100	2.39	7.52	13.26
標 準	50	48	96	2.49	8.30	13.74

以上ノ得タル結果ニヨリ見ルニ發芽ノ最モ良好ナルハ第四區ノナフタリン一坪五匁施用區ニシテ昨年モ第二位ニアリテ第一位トノ差僅ニパーセントニ過ギズコレニヨツテ推ス時ハ多少ノナフタリンハ却ツテ發芽ヲ促スモノ、如シコレニ反シ一坪十匁ノモノハ最モ發芽歩合少ク二十匁施用區ハ却ツテ優レルノ結果ヲ得タリト雖モコレヲ全体ノ發芽ノ狀況ヨリ見ル時ハ發芽最モ惡シク且ツ最モ遲シ而シテ五匁以下ニアリテハ何等ノ影響ナキガ如シ

生育ノ狀況ハ標準區ヨリモナフタリンヲ増ス毎ニ劣リ而モ其ノ差ハ發芽當時程著シク漸次少クナルモノ、如シ

第三 馬醉木ニ關スル試驗 (繼續第五年)

本試驗ノ目的ハ有毒植物タル馬醉木(あせび)ヲ利用シテ害虫ヲ驅除スル場合ニ如何ナル方法ニヨリ利用スレバ可ナルヤヲ知ラントスルニアリ

- 其 一 生葉煎汁試驗
- 其 二 乾葉粉末試驗
- 其 三 揮發油並ニ石油浸出液試驗

何レモ完全ナル成績ヲ收メ得ズト雖モ最後ノ揮發油並ニ石油一升ニ對シ馬醉木二十匁ヲ浸出セルモノヲ以テ石油乳劑ヲ調製浸出セザル揮發油並ニ石油ヲ以テ調製セル石油乳劑ト比較セルニ其優レルヲ認メタリ尙試驗研究セントス

第四 胡瓜新藥劑撒布試驗 (新 設)

從來ヨリ使用シ來リタルボルドー液ノ外ニ極度ニ過量ノ石灰ヲ配合セルモノ即チ硫酸銅百二十匁ニ對シ石灰百二十匁ノ割合ニテ調製セル四斗式石灰ボルドー液ト外ニ石灰ヲ其ノ三倍及ビ五倍量丈配合セル四斗式石灰ボルドー液トヲ調製シ更ニ同様ノ分量即チ次ノ調製式ニヨリ

硫酸銅石鹼液ヲ調製ス

硫酸銅百二十匁	石鹼百二十匁	水	四	斗
硫酸銅百二十匁	石鹼三 倍	水	四	斗
硫酸銅百二十匁	石鹼五 倍	水	四	斗

右ノ藥劑ヲ胡瓜ニ撒布セルニボルドー液ニアリテハ等量式石灰ボルドー液最モ効力強ク露菌病ニ侵サル、コト最モ少ク且收量モ最モ多シ硫酸銅石鹼ニアリテハ何レモ青色粘狀ノ沈澱並ニ浮游物ヲ生ジ撒布ニ頗ル困難ヲ感ズ且石鹼百二十匁ニ對シ硫酸銅百二十匁ノ割合ニ調製セルモノハ最モ藥害甚ダシク第二回後ノ撒布ヲ中止ス只石鹼量ヲ硫酸銅ノ五倍ノ割合ニ調製セルモノハ頗ル効力多ク等量式石灰ボルドー液ト大差ヲ認メズ只汚染甚ダシク外觀ヲ損ズル嫌アリ

尙葡萄ニ撒布試驗ヲ行ヒタルニ殆ンド同一ノ結果ヲ得タリ

第五 茄子ト石灰硫黃合劑トノ關係試驗

石灰硫黃合劑ヲ用ヒテ茄子ノ青枯病及立枯病ヲ豫防スル場合之ト如何ナル關係アルヤヲ知ラント欲シ次ノ各種試驗ヲ行フ

其 一 茄子品種ト石灰硫黃合劑ノ

調製式トノ關係試驗 (新 設)

供試品種ハ中生山茄子, 蔓細千成茄子, 魚沼巾着茄子, 長田茄子ノ四品種ニシテコレト石灰硫黃合劑ノ調製式即チ濃厚硫黃多量式, 稀薄等量式, 濃厚石灰多量式ノ三式トノ關係ヲ調査セルニ何レノ品種ニアリテモ個數ノ最モ多ク目方ノ多キハ石灰多量式ニシテ次ハ稀薄等量式ニシテ硫黃多量式最モ劣レリ而シテ本年度一本ノ發病モナカリシガコレヲ發病ノ比較的ニ多カリシ前年ノ收量ノ最モ多カリシハ硫黃多量式ナリ此ノ點ヨリ見テ勿論斷定的ニハアラザルモ發病ノ多キ年ニハ硫黃多量式有効ニシテ發病ノ少キ年ニアリテハ石灰多量式ノ優レルニアラザルヤ勿論單ニ二ケ年ノ成績ナレバ尙繼續試驗ノ上決定セントス

其 二 茄子ヲ實生シタル場合ニ於テ

各調製式トノ關係 (新 設)

茄子ヲ直接圃上ニ播種シタル場合ニ之ガ茄子ノ發芽並ニ生育ニ如何

ナル關係ヲ及ボスヤヲ試驗セルニ發芽整一ニシテ而モ良好ナリシハ石灰多量式ニシテ次ニハ等量式ニシテ硫黃多量式ハ三式中最モ劣レリ生育ノ狀況ヲ見ルニ最モ良好ナリシハ等量式石灰多量式ニシテ硫黃多量式ハ遙ニ劣レル成績ヲ得タリ

□二化螟蟲ニ關スル試驗ノ部

第一 葉鞘變色莖摘採効果ニ

關スル試驗

本試驗ハ農商務省ノ訓令ニ基キ各府縣農事試驗場ノ聯絡調査ニ係ルモノニシテ本年度ノ本場ノ成績次ノ如シ

其 一 二化螟蟲第二回發生ニ於ケル葉鞘變色莖摘採効果ニ關スル試驗 (繼續第三年)

試驗別	玄米收量(石)				摘採ノ利益(圓)				
	大正七年	大正八年	大正九年	平均	大正七年	大正八年	大正九年	平均	
被害刺甚地	三回摘採區	3.900	2.918	3.207	3.342	2.594	13.900	2.547	2.177
	無摘採區	3.290	2.618	3.133	3.010	0	0	0	0
被害中庸地	三回摘採區	3.699	2.610	3.800	3.369	15.921	2.769	1.677	6.489
	無摘採區	3.384	2.577	3.707	3.223	0	0	0	0
被害輕少地	三回摘採區	3.904	2.573	2.860	3.112	17.924	8.383	2.303	9.544
	無摘採區	2.465	2.430	2.750	2.579	0	0	0	0

其 二 二化螟蟲第二回發生葉鞘變色莖摘採ト株間踏切トノ比較

試驗別	玄米收量(石)				摘採ノ効果(圓)				
	大正七年	大正八年	大正九年	平均	大正七年	大正八年	大正九年	平均	
被害中庸地	三回摘採區	3.655	2.730	2.900	3.428	2.330	4.606	2.391	3.209
	無摘採區	3.593	2.675	3.080	2.782	0	0	0	0

其 三 株間踏切及動搖ノ回数ト其ノ影響

試驗別	玄米收量(石)				玄米一升重量(匁)				
	大正七年	大正八年	大正九年	平均	大正七年	大正八年	大正九年	平均	
被害中庸地	三回踏切區	3.398	2.895	2.340	2.378	369	366	271	335
	五回踏切區	3.299	2.933	2.640	2.977	361	367	259	329
	七回踏切區	3.270	2.880	1.500	2.750	361	368	275	334
	無踏切區	3.394	2.730	2.565	2.907	366	367	265	266

第二 肥料施用量ト二化螟蟲トノ

關係試驗

本試驗ハ肥料施用量ト二化螟蟲トハ如何ナル關係アルヤヲ知ラント欲シ葉切病試驗田ニ於テ試驗セルニ二化螟蟲ノ被害莖數最モ多カリシハ石灰四倍區ニシテ例年ノ結果ト一致スコレニ次ギ窒素三倍、同二倍用區被害多ク石灰單用區無肥料區最モ少クコレモ例年ノ結果トヨク一致ス即肥料ノ配合ヲ誤リ稻ヲシテ軟弱ノ發育ヲセシメタルモノハ被害ヲ受ケ易キコトヲ知り得タリ

第三 追肥トノ關係試驗

本試驗ノ目的トスルトコロハ本田ニ於テ追肥ヲ施シタル場合ニ於テ二化螟蟲ノ被害ト如何ナル關係アルヤヲ知ラントスルモノニシテ病虫部試驗田並ニ種藪部肥料試驗田ニ於テ調査セル結果ニヨレバ追肥ヲ施シタルモノハ其ノ然ラザルモノニ比シ被害セラル、コト遙ニ多キヲ知り得タリ

□病蟲害調査ノ部

第一 獎勵原種ト病虫害トノ關係

本縣獎勵原種ト病虫害トノ關係ヲ調査セルモノニシテ次ノ如キ結果ヲ得タリ

其二 二化螟蟲トノ關係

被害最モ少カリシ品種	岩之下 高田早生 改良愛國 新二本 二本三
被害最モ多カリシ品種	新岩 米光 新一本

其二 稻熱病トノ關係

罹ルコト少カリシ品種	{改良愛國 岩之下 新一本 新石白 高田早 稻 石白 中生高宮 二本三
罹ルコト最モ多カリシ品種	水之端 越前 越中坊主 銀葉

其三 稻熱病トノ關係

被害ノ少カリシ品種	{中生高宮 高田早生 米光 岩之下 越前 龜之尾
被害ノ多カリシ品種	二本三 新一本 新二本 高田早生 越中坊主

第二 茄子品種ト病虫害トノ關係

本調査ハ茄子ノ青枯病及立枯病ニ對スル抵抗力強キ品種ヲ知ラントスルモノニシテ園藝部圃場ニテ調査セル結果次ノ如シ

發病少ナキ品種	白茄子 行徳茄子 折戸茄子 民田茄子
發病中庸ノ品種	魚沼山管 改良巾着
發病多キ品種	中生山茄子 蔓細千成 毒葉茄子

□ 委托試驗之部

第一 萃樹病害防除試驗

本試驗ハ北魚沼郡廣瀬村關矢孫一氏ニ委托施行セルモノニシテ萃樹腐爛病ノ適當ナル豫防法ヲ知ルニアリ、即チ硫酸鐵一%液百立方厘ヲ發芽當時落花當時及果實ノ六、七分位ノ大イサニ達セル時ノ三回ニ分チ注射セルモノ(幹ニ穿孔シテ注入ス)生石灰一%液ヲ硫酸鐵液同様ニ使用セルモノ及硫酸鐵五匁ヲ幹ニ穿孔シテ填充セルモノノ三種ニ分チテ試驗セシ結果供試樹一本ニ就キ發病枝數ハ藥劑ヲ以テ處理セルモノハ三四本ニシテ大差ナク無處理ノモノハ十三本アリタリ、而シテ供試樹ノ生育狀況ハ處理セルモノハ無處理ノモノニ比シテ發育盛ニシテ

樹勢強キ爲メ夏枝ヲ多ク生ゼリ

第二 梨姫心喰虫被害ト袋掛回数トノ關係試驗

本試驗ハ中蒲原郡早通村清水新一郎氏ニ委囑セルモノニシテ袋掛回数ノ心喰虫被害ノ程度ニ及ボス影響ヲ知ルニアリ其ノ成績概要左ノ如シ、供試果數百三十七乃至二百十六個ヲ使用シ袋掛回数ヲ一乃至三回入三種ニ分チタルニ心喰虫ノ被害果ハ一回袋掛ニ於テ一分一厘、二回袋掛ニ於テ七分ノ三回袋掛ニ於テ八分七厘ナリ然レモ本年始メテ施行セシモノナレバ未ダ其ノ効果ヲ斷定シ得ズ

第三 茄子立枯病防除試驗

本試驗ハ北蒲原郡中浦村林四平氏ニ委囑セルモノニシテ茄子立枯病豫防法トシテ石灰硫黃合劑ノ土壤消毒ノ效果ヲ知ラントスルニアリ成績ノ概要左ノ如シ

試驗區ハ八乃至十三坪トシ連作土壤及新土壤ヲ使用シ消毒法トシテ整地ノ際ボーメ一乃至二度液ヲ撒布セルモノ及移植後0,3-0,5度液ヲ撒布セルモノニ分チテ試驗セル結果連作土壤ニテ整地ノ際一回消毒セルモノ最モ良好ナル成績ヲ得次ニ新土壤ニテ整地ノ際一回消毒セルモノ連作土壤三回消毒(一回ハ整地ノ際他ハ移植後)等ノ順次ニシテ連作土壤無消毒區最モ惡シク新土壤無消毒區之レニ次ギ消毒效果ヲ窺知シ得ベシ以上ノ外藥劑ノ費用各區ノ生育狀況等ニ就キ精細ナル調査ヲ行ヒリ

第四 白菜腐敗病防除試驗

本試驗ハ茄子立枯病防除試驗ト同一ノ擔當人ニ委囑セルモノニシテ白菜腐敗病ヲ防除セン爲メ石灰硫黃合劑ヲ撒布シテ土壤消毒ヲ行ヒ同時ニ其ノ誘因トナル黃筋蚕虫ノ驅除ヲ行ヒ以テ發病ノ狀況ヲ調査スルニアリ、即チ整地ノ際ボーメ二度液ヲ坪當リ一升五合ノ割ニ撒布シ又發芽後0,3-0,5度液ヲ撒布シ除虫菊木灰合劑ヲ以テ黃筋蚕虫ノ驅除ヲ

行ヒタルモ本年ハ標準區ニ僅ニ二本ノ枯死株ヲ生ズルヲミシテ發病
數カリシ爲メ豫防處理ノ結果ヲ十分比較シ得ザリシ

第五 馬鈴薯病虫害防除試驗

本試驗ノ中其ノ一ハ岩船郡村上町着町市岡治郎氏ニ委託セルモノニ
シテ馬鈴薯病虫害ト肥料トノ關係ヲ知ルニアリ即チ試驗地附近ニテ普
通ニ使用ルラル、肥料分中ノ窒素磷酸加里ヲ各二倍ニ増施セルモノ又
ハ普通肥料ノ外ニ反當三十貫ノ石灰ヲ加用セルモノ等ニ區分シテ試驗
セシモ各區共ニ病虫害ノ發生ナカリシ爲メ其ノ目的ヲ達シ得ザリキ
其二ハ中頸城郡中郷村大字藤澤萩野初太郎氏ニ委託シテ馬鈴薯ヲ喰
害スル二十八星瓢虫ノ驅除法トシテ四斗式石灰ホルドウ液ニ亞硫酸曹
達液一合ヲ加ヘタルモノ、効果ヲ知ラン爲メ二乃至四回ノ三種ニ分チ
テ撒布セシモ該虫ノ發生ナク効果ヲ比較スル事能ハザリキ又各區ノ收
量藥劑撒布ニ要セシ費用等ニ就キ精細ナル調査ヲ行ヒタリ

第六 大豆病害防除試驗

中魚沼郡農會ニ委囑シ同郡貉原及正面ヶ原ノ二ヶ所ニ施行セルモノ
ナリ貉原ニ行ヒシモノハ肥料、深耕、乾燥及藥劑ノ土壤消毒ト病害トノ
關係ヲ知ラン爲メ三要素單用、本場標準肥料普通ヨリ四寸丈ケ深耕セ
ルモノ(施肥法ハ本場標準ニ依ル以下之レニ同ジ)敷藁ヲ爲シテ乾燥ヲ
防ゲルモノ石灰硫黃合劑、ナフタリン、硫黃華、ナフタリント石灰トノ
合劑トニ分チテ試驗セシ結果普通肥料區ハ草丈ケ最モ大ニシテ收量
多ク次ハナフタリン撒布區ナリ三要素單用區ハ何レモ大差ナク深耕及
敷藁ハ其ノ効果ヲ見ル能ハズ

正面ヶ原ニ施行セルモノハ專ラ肥料トノ關係ヲ知ラン爲メ無肥料、
本場標準肥料、同上石灰窒素十五乃至二十七貫加用正面ヶ原普通肥料、
同上磷酸加用(過磷酸石灰反當六貫)同上窒素加用(硫酸アムモニア反
當二貫二百匁、四貫六百匁、六貫九百匁)ニ分チテ試驗セシ結果草丈ケ
テハ本場標準肥料區最モ矮小ナリシモ收量ニアリテハ本場標準區ト石
灰窒素ヲ加用セルモノトハ大差ナク何レモ他ノ區ニ比シ收量多シ

野鼠チブス菌配布之部

本年ハ原菌ヲ西ヶ原農事試驗場及新潟醫學專門學校川村醫學博士ヨ
リ分讓セラレタルモノ兩者ヲ培養シ添喰試驗ヲ試ミシニ川村博士ヨリ
分讓セラレタルモノハ西ヶ原ヨリ分讓セラレタル「ダニス」菌ニ比シ一
日程早く斃死スルヲ知リタルヲ以テ本年度ハ本菌ヲ配布セリ今本年
度春秋二季ニ於ケル郡市別配布面積ヲ示セバ次ノ如シ

郡市名	春季 (單位町)			秋季		
	恙虫有地	農耕地	計	恙虫有地	農耕地	計
北蒲原郡	130		130	113	452	567
中蒲原郡	22	310	332	105	254	359
西蒲原郡	30		30		71	71
南蒲原郡	94	23	118		20	20
北魚沼郡					21	21
中魚沼郡		646	646		386	386
南魚沼郡		225	225	54	56	110
中頸城郡		132	132		163	163
東頸城郡					6	6
西頸城郡		797	797		167	167
三島郡					64	64
古志郡		120	120		68	68
刈羽郡		64	64		252	252
岩船郡					274	274
佐波郡					22	22
新潟市		50	50			
長岡市		128	128		128	128
高田市					50	50
計	400	2367	2767	272	2491	2763

以上ノ配布地積ヲ前年度ト照シ見ルニ前年度春秋合計五千七百五十
二町歩ナルニ比シ本年度ハ五千五百三十町歩ニテ前年度ヨリ二百餘町
歩ヲ減少シ配布量多カリシ大正四年度ニ比スレバ三千餘町歩ノ減少ナ
リ

農業技術員養成

町村農業技術員養成ノ目的ヲ以テ大正八年度ヨリ農業技術員養成部
ヲ創設セリ本年度ニ於テハ特ニ講堂及生徒寄宿舍ヲ新設シ尙ホ主事ト
シテ技師一名ヲ増員シ専ラ養成部事務ヲ擔任セシメタリ

本年度入場志願者ハ二十二名ニシテ内二十名ヲ選抜シ大正九年四月
一日ヨリ大正十年三月三十一日ニ至ル滿一ケ年間養成セリ

本年度修得者氏名次ノ如シ (大正十年五月調)

氏名	學歷	原籍	修得後ノ狀況	備考
堀 晋 爾	乙種農卒	北蒲原郡聖籠村	北魚沼郡吉谷村技術員	
錦 織 森 藏	同上	同 黒川村	北蒲原郡黒川村技術員	
伊 藤 永 吉	同上	同 聖籠村	北蒲原郡聖籠村技術員	
石 井 善 一	同上	佐渡郡八幡村	佐渡郡農事試験場	
横 尾 省 一	甲種農卒	中頸城郡三郷村	中頸城郡五十公野村 技術員	農業補習 學校兼務
齋 藤 德 藏	同上	北蒲原郡黒川村	自	營
阿 部 敏 夫	乙種農卒	刈羽郡北鱈石村	自	營
大 沼 勇	同上	北蒲原郡松浦村	自	營
鶴 龜 榮 太 郎	同上	同 分田村	北蒲原郡分田村技術員	
島 田 金 二	同上	古志郡下鹽谷村	自	營
菅 原 太 一 郎	同上	岩船郡鹽ノ町村	自	營
伊 藤 直	同上	東蒲原郡豐實村	自	營
佐 野 喜 代 一	同上	南蒲原郡庄川村	自	營
田 村 啓 一	同上	刈羽郡西中通村	刈羽郡農會	
栗 原 莊 次	同上	同 石地村	自	營
佐 藤 龍 三	同上	同 高柳村	自	營
佐 藤 良 治	同上	中頸城郡春日村	中蒲原郡鷺巻村 笠巻農業補習學校	
小 池 佳 壽	同上	東頸城郡安塚村	自	營
知 本 源 之 丞	同上	佐渡郡真野村	自	營
山 本 保 一	相當認定			事故退任

農業技術員養成部

第一 出張ニ關スル事項

用	務	回	日	數
農	事	視	察	31
種	苗	採	取	11
土	性	調	指	9
團	地	鏡	會	41
農	事	調	查	40
事	務	打	合	35
農	事	講	及	60
實	地	指	導	34
擔	當	人	協	22
裁	培	調	查	5
病	虫	害	防	6
			驅	
			除	
			督	
			勵	

第二 文書取扱件數

本年度ニ於テ取扱ノ文書五千三十一件ニシテ内譯下ノ如シ

發	送	1375
收	受	8656

第三 參觀人員

本年度ニ於ケル參觀人員左ノ如シ

參	觀	人	員	11752
特	殊	傳	習	700

第四 報告類發刊ニ關スル件

事	業	報	告	200
試	驗	成	績	200
			摘	
			要	

第五本場職員氏名 (十年五月卅一日現在)

分 擔 事 務	職 名	氏 名
農藝化學部主任	場長技師	榎本中衛
農藝部主任	技師	林川上忠
園藝部主任	技師	安藤安
種藝部主任	技師	和田滋
技術員養成部主任	技師	長友繁
種藝部主任	技師	柿崎洋
病蟲部主任	技師	高橋信
種藝部採種係	技師	岡村本
園藝部採種係	技師	西山茂
種藝部採種係	技師	上野輝
農藝化學部	技師	榊澤次
園藝部	技師	牧野忠
庶務會計	主事	大野兼三
病蟲係	助手	三條芳
種藝部原種係	助手	渡崎尾哲太
種藝部育種係	助手	佐藤準一
		井上恂一

大正11年2月15日印刷
大正11年2月20日發行

新潟縣農事試驗場

長岡市吳服町
印刷人 太田仁一郎
長岡市四郎丸
印刷所 越佐新報社

1421
28/1

終